

平成 31 年度（令和元年度）  
全国学力・学習状況調査結果 分析報告書

令 和 元 年 1 1 月  
三 重 県 教 育 委 員 会

## 目 次

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について	1
調査の概要	2
第 1 章 教科に関する調査の結果	
平均正答率・平均無解答率、平均正答率による学校の分布	3
小学校国語	4
中学校国語	6
小学校算数	8
中学校数学	10
中学校英語（「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」について）	12
中学校英語 授業改善のポイント	14
各設問の正答率、無解答率及び関連ワークシート一覧	16
第 2 章 児童生徒・学校質問紙調査の結果	
自己肯定感、挑戦心、達成感に関する状況	21
規範意識に関する状況	23
家の人との対話に関する状況	23
学習習慣に関する状況	24
読書習慣に関する状況	24
教科に対する意識等に関する状況（国語、算数・数学について）	25
教科に対する意識等に関する状況（中学校英語について）	27
カリキュラム・マネジメントに関する状況	28
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	29
地域との関わりに関する状況	31
地域や社会と学校の連携・協働に関する状況	32
第 3 章 県内の取組（学校等の取組事例）	
学習内容の理解と定着に向けた取組	〔川越町立川越南小学校〕 33
チームで取り組む、学習内容の理解と定着	〔紀北町立潮南中学校〕 34
授業と連動した家庭学習の取組	〔松阪市立山室山小学校〕 35
学習習慣の確立に向けた家庭学習	〔津市立橋南中学校〕 36
「わかつたつもり」を「わかつた」にする習熟度別少人数指導の工夫	〔四日市市立楠小学校〕 37
「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組	〔亀山市教育委員会〕 38
小中学校の外国語教育の円滑な接続を目指した取組	〔亀山市教育委員会〕 39
第 4 章 「みえの学力向上県民運動」主な関連指標（短期的・中期的な変化）	40
第 5 章 今後の取組	44
第 6 章 市町等別調査結果の分析及び今後の取組	46
参考資料	47

## 用語の説明

### みえの学力向上県民運動とは

三重県・三重県教育委員会では、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、教育力を高めながら一体となって子どもたちの学力を育んでいくため、平成 24 年度から「みえの学力向上県民運動」を展開しています。子どもたちが「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を実感しながら学び、自らの希望と未来を支える学力を身に付けられるよう、平成 28 年度から「主体的・協働的に学び行動する意欲」の育成、「学びと育ちの環境づくり」、「読書をとoshした学び」の推進の3つを柱とする取組を進めています。

### 肯定的な回答とは

質問紙調査の項目の多くは、4段階の選択肢の形式で回答するものです。それらの項目において、上位の選択肢番号1と2を、「肯定的な回答」としてしています。例えば、「自分には、よいところがあると思う」の選択肢「1.当てはまる」「2.どちらかといえば、当てはまる」「3.どちらかといえば、当てはまらない」「4.当てはまらない」で、肯定的な回答とは、「1.当てはまる」「2.どちらかといえば、当てはまる」と回答したものを指します。

### A層、B層、C層、D層とは

本調査の集計対象となった児童生徒全員の正答数分布の状況から四分位により分類し、正答数の高い順に、学力層A（A層）、学力層B（B層）、学力層C（C層）、学力層D（D層）としたものです。例えば、小学校国語では、A層には12問以上正答した児童、B層には10問から11問正答した児童、C層には7問から9問正答した児童、D層には6問以下正答した児童が分類されます。

### P D C A サイクルとは

「P D C A サイクル」は、P l a n（計画）、D o（実行）、C h e c k（評価）、A c t i o n（見直し）の頭文字を取ったもので、教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し（P）、実施し（D）、評価して（C）、改善を図る（A）一連のサイクルをいいます。

### カリキュラム・マネジメントとは

学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことを指します。具体的には、「児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと」などをとおして、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことと定義されています。

# 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

三重県教育委員会

令和元年11月

本年度の全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」の結果は、小中学校合わせた5教科中4教科（小学校国語・算数、中学校数学・英語）で全国の平均正答率以上となりました。また、平均無解答率は、全教科で全国より良好な水準となりました。こうした子どもたちの頑張りや粘り強さは、「児童生徒質問紙調査」の「最後まで解答を書こうと努力した」等の質問に肯定的に回答した子どもの割合が、調査開始以来最も高かったことにも表れています。

今回の結果は、学校における「できなかったことをできるようにする取組」や教職員の子ども一人ひとりの学びに寄り添ったきめ細かな指導、家庭での生活習慣に向けた取組、地域による学習支援等、学校・家庭・地域が連携し取組を粘り強く積み重ねてきたことによるものと考えています。

一方、本県の経年的な課題である「書かれている内容を理解しイメージする力」「根拠に基づいて自分の考えを書く力」等については、十分な改善に至っていません。

今後、各学校においては、今回の成果と課題を共有し、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善や「できなかったことをできるようにする取組」の定着を図り、学校全体で学力向上の取組を進めていくことが大切です。また、家庭・地域においては、引き続き課題である生活習慣・学習習慣・読書習慣の改善に向けた取組を広げていくことが大切です。

子どもたちの学力が向上することは、自己肯定感やチャレンジする力を高め、将来の夢を実現するための可能性や選択肢を広げることに繋がります。子どもたちが「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を実感しながら、自らの希望と未来を支える確かな学力を身に付けられるよう、「子どもたちの笑顔のために」という強い思いで、学校・家庭・地域が一体となった学力向上の取組を進めてまいりますので、引き続き、県民の皆様方の御理解・御協力をよろしくお願いします。

## ～全ては「子どもたちの笑顔」のために～

※調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における「8（5）調査結果の取扱いに関する配慮事項」をご覧ください。

（P.46 に抜粋して掲載しています。）

## 調査の概要

1～4については、文部科学省が示す「平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」に基づきます。

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
  - 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査の対象学年

- ・小学校第6学年及び中学校第3学年の原則として全児童生徒を対象とする。
- ・特別支援学校小学部第6学年及び中学部第3学年の原則として全児童生徒を対象とする。
- ・ただし、特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
  - (1) 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
  - (2) 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

### 3 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 4 調査実施日

平成31年4月18日（木）

### 5 調査を実施した学校、児童生徒数〔三重県：公立〕

#### 【小学校調査】

	対象学校数	実施学校数	児童数
小学校	351	351	15,725人

※学校数には、義務教育学校前期課程、県立特別支援学校を含む。

#### 【中学校調査】

	対象学校数	実施学校数	生徒数
中学校	156	156	15,429人

※学校数には、義務教育学校後期課程、県立特別支援学校を含む。

※学校数及び児童生徒数については、平成31年4月11日（木）時点の文部科学省から提供を受けた資料に基づく数値です。

# 第1章 教科に関する調査の結果

**平均正答率・平均無解答率** 子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導の成果が表れました。

小中学校合わせた5教科中4教科（小学校国語・算数、中学校数学・英語）で全国の平均正答率以上となりました。（5教科中4教科で全国平均以上となったのは、調査開始以来初めてとなります。）

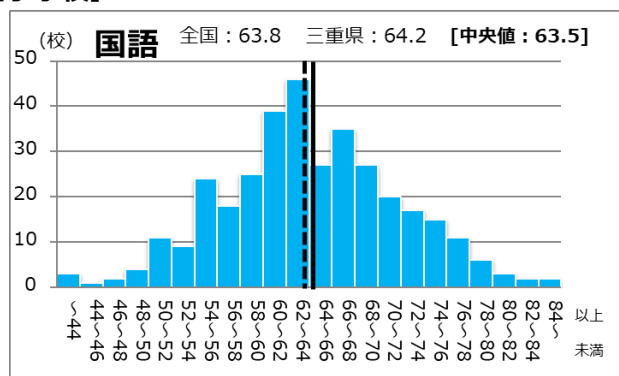
また、平均無解答率では、全教科（小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語）で全国より良好な水準となりました。

	平均正答率			平均無解答率		
	国語	算数・数学	英語 (聞く・読む・書く)	国語	算数・数学	英語 (聞く・読む・書く)
小学校	64.2(+0.4)	66.7(+0.1)		5.47(-0.74)	2.49(-0.17)	
中学校	71.7(-1.1)	60.3(+0.5)	56.0(±0.0)	2.57(-0.03)	6.65(-0.66)	5.44(-0.55)

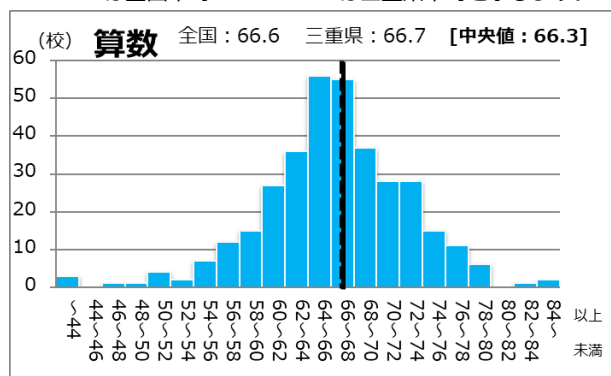
※ ( ) の数値は、全国の平均正答率との差を示します。

**平均正答率による学校の分布** 平均正答率が40ポイント以上差のある教科があります。

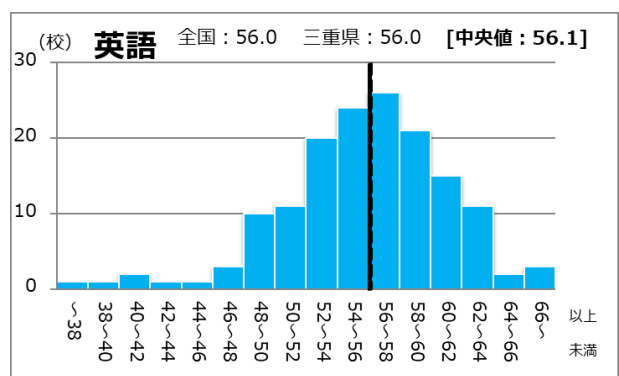
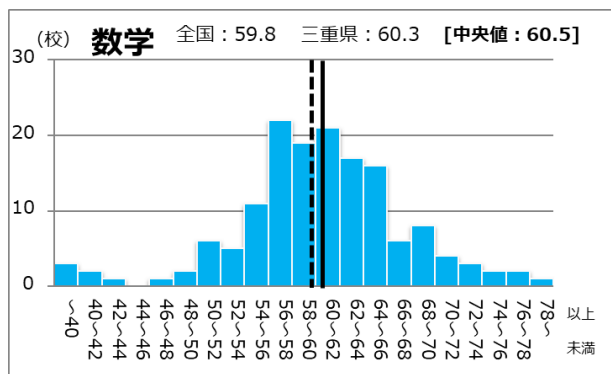
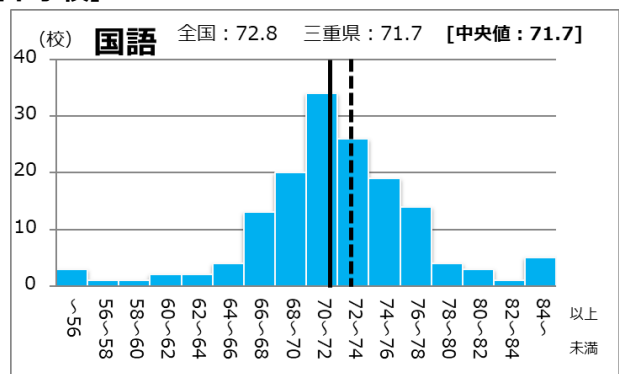
## 【小学校】



----- は全国平均    ———— は三重県平均を示します。



## 【中学校】



## 各教科の全国の平均正答率を上回る学校数

小学校	国語	算数	
	166校 (47.8%)	163校 (47.0%)	
中学校	国語	数学	英語
	62校 (40.8%)	80校 (52.6%)	78校 (51.3%)

※ ( ) の数値は、全国の平均正答率を上回る学校数の割合を示します。

# 小学校国語

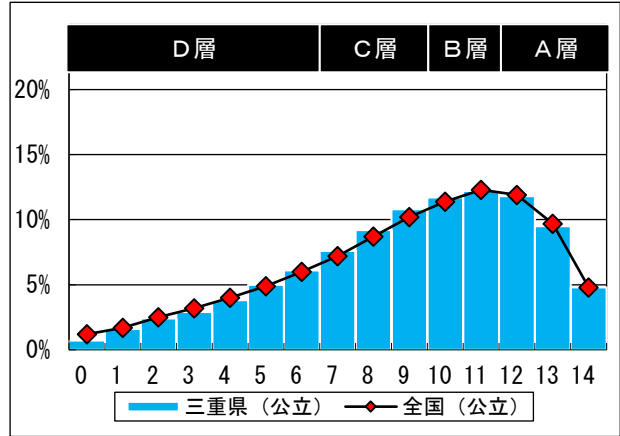
## <分類・区分別集計結果>

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	73.0(+0.7)
	書くこと	3	54.8(+0.3)
	読むこと	3	82.8(+1.1)
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	53.4(-0.1)
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	59.1(+1.5)
	話す・聞く能力	3	73.0(+0.7)
	書く能力	3	54.8(+0.3)
	読む能力	3	82.8(+1.1)
	言語についての知識・理解・技能	5	53.4(-0.1)
問題形式	選択式	7	75.4(+0.3)
	短答式	4	48.5(-0.2)
	記述式	3	59.1(+1.5)

## <児童の正答数分布グラフ>

(横軸：正答数、縦軸：児童の割合)

	平均正答率	平均正答数	中央値	最頻値
本県	64.2	9.0問/14問	9.0問	11問
全国	63.8	8.9問/14問	10.0問	11問



※表中の( )内の数値は全国平均との差を示します。

## <今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができます。

### 大問2 疑問に思ったことを調べ、紹介し合う(「食べ物の保存」)【読むこと】

#### 設問一(2)

食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の空欄に、疑問に思ったことに対する答えになるよう、【資料】から言葉や文を取り上げて書く問題

- ・「なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか」に対する答えとなるよう、【資料】の「そのため、人々は昔から様々な方法で食べ物の保存を試みてきました。」の前に書かれている部分に着目して考えをまとめている。

正答率：77.7% (全国差：+1.8)

(2) 【ノートの一部】の イ に入る内容を、あの条件に合わせて書きましょう。

② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、

イ

〈条件〉

- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 四十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。
- 疑問に思ったこと ② の答えになるように考えて書くこと。

**大問1** 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）【書くこと】

設問三

【報告する文章】の「3 調査の結果をもとに考えたこと」の部分に、「(1) 公衆電話はどのようなときに必要なか」と「(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか」で分かったことをまとめて書く問題

- ・ (1) と (2) の両方から分かったことを取り上げて、報告文にふさわしい表現で書いている。

正答率：30.1% (全国差：+1.3)

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [ ] に「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) で分かったことをまとめて書いています。 [ ] に入っている内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 「報告する文章」にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の縦線は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。  
 ※右の縦線は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。  
 ※のりから書きましょう。どちら側でも書きませんが、横書きで書きましょう。

正答と主な誤答例の反応率

正答の条件

- ① 「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いている。
- ② 【報告する文章】にふさわしい表現で書いている。
- ③ 書き出しの言葉に続けて、40 字以上、70 字以内で書いている。

正答 【解答類型1】条件①、②、③を満たしているもの 反応率：30.1% (全国との差：+1.3)

主な誤答例【解答類型4・5】条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の (1) または (2) のどちらか片方からのみ分かったことについて言葉や文を取り上げて書いているもの 反応率：28.5% (全国との差：+1.9)

【解答類型6】条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもののうち、「2 調査の内容と結果」の (1) や (2) から、分かったこと以外の内容について言葉や文を取り上げて書いているもの 反応率：9.7% (全国との差：-0.6)

※反応率とは、解答類型ごとの解答の割合のことです。

<解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

**解答類型 4・5**  
 つまずき：複数の記述を根拠として取り上げ、まとめることができていません。

【指導のポイント】  
 報告する文章を書く場合は、調べた結果から自分がどのような考えをもったかを述べることとなります。文章全体の構成に即して自分の考えを明確にして書けるよう構成表を作成し、見出しに沿って記述漏れなく書けるよう指導するなどの工夫が考えられます。

**解答類型 6**  
 つまずき：調査の内容とそこから分かったこととを区別してまとめることができていません。

【指導のポイント】  
 教材文等を用いて事実と考えとの違いを確かめる指導をすることが考えられます。その際、文末の表現や文と文とのつながりに着目することが大切です。

<課題に対応したワークシート>

- ・ 三重の学-Viva!!セット第 11 弾 「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書こう②」 【第 5 学年】



# 中学校国語

## <分類・区分別集計結果>

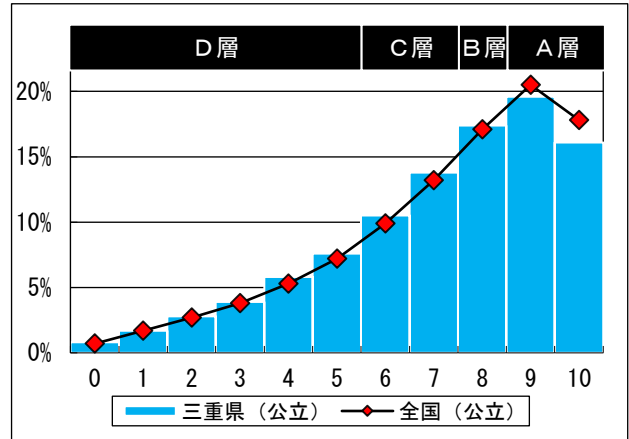
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.1(-1.1)
	書くこと	2	81.7(-0.9)
	読むこと	3	71.6(-0.6)
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	65.6(-2.1)
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	76.9(+0.4)
	話す・聞く能力	3	69.1(-1.1)
	書く能力	2	81.7(-0.9)
	読む能力	3	71.6(-0.6)
	言語についての知識・理解・技能	2	65.6(-2.1)
問題形式	選択式	6	72.1(-1.5)
	短答式	1	53.4(-3.4)
	記述式	3	76.9(+0.4)

※表中の( )内の数値は全国平均との差を示します。

## <生徒の正答数分布グラフ>

(横軸：正答数、縦軸：生徒の割合)

	平均正答率	平均正答数	中央値	最頻値
本県	71.7	7.2問/10問	8.0問	9問
全国	72.8	7.3問/10問	8.0問	9問



## <今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができます。

### 大問1 情報を読む(新聞)【読むこと】

#### 設問三

【全国中学生新聞】の「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く問題

・短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くとともに、想像した内容について感じたことや考えたことを、自分なりのものの見方や考え方が分かるように書いている。

正答率：91.6% (全国差：+0.4)

三 「みんなの短歌」に掲載されている内山さんの短歌、森川さんの短歌、松田さんの短歌の中から一首を選び、どの短歌を選んでもかまいません。その短歌を読んであなたが感じたことや考えたことを、「選者より」を参考にしながら、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 選んだ短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くこと。

条件2 条件1で想像した内容について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

#### 【全国中学生新聞】左ページ

7 文化 2019年(平成31年)4月14日(日曜日) 全国中学生新聞

### 声の広場

今年こそ優勝!!

残せ感動 残す後悔

(中2・野球大好き)

私の朝の朝は、私に夢があるから、私に夢があるから、暖かかったね。

(中3・こねこ)

#### みんなの短歌

今回は、新年度を迎えたフレッシュな心境を表した作品が集まりました。

目が覚めるジリジリと鳴る前に胸が高鳴る入会の朝

中一 泉 あきら

【選者より】「ジリジリと鳴る前に」と「胸が高鳴る」という表現から、いつもは目覚まし時計の音で起きていたのに、この日の朝は、胸がどきどきして目覚まし時計が鳴る前に起きてしまったことが想像できます。入学式の朝は、新しい生活に思いを巡らせて、落ち着かない気持ちになるものです。

新しいノート教科書取り出して背筋伸ばして始まりを待つ

中一 内山 誠一

玄関の鏡の前でもう一度前髪笑顔ボタン笑顔と

中二 森川 りか

春風がいつもの道を駆け抜ける雫の足取り自然と軽く

中三 松田 花子

■投稿先 〒100-6543 東京都千代田区中央3 全国中学生新聞「声の広場」係 FAX 000-123-xxxx メール zenkoku@xxxxxx

▼イラストははがき大。「みんなの短歌」は1通に2首まで。 ▼氏名、学年、住所、電話番号を明記。イラストはペンネーム可。

文章の展開に即して情報を整理し、目的や必要に応じて情報を過不足なく選択することに課題があります。

**大問1** 情報を読む（新聞）【読むこと】

設問二

【全国中学生新聞】の「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを全て選択する問題

＜選択肢＞

- 1 インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。
- 2 主食、主菜、副菜などが収まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。
- 3 ボックスランチやカスクルートなどとは異なり、戸外に持ち出して食べることができる。
- 4 いろいろな料理が詰められているので、食べ物の風味を保つことができる。
- 5 様々なデザインの弁当箱があり、自分の好みのものを選ぶことができる。

正答率：60.3%（全国差：-1.2）

【全国中学生新聞】右ページ

全国中学生新聞 2019年(平成31年)4月14日(日曜日) 文化 6

## 海外に広がる弁当の魅力



アメリカのボックスランチやフランスのカスクルートなど、日本の弁当のように戸外に持ち出して食べることでできる食事は、昔から各国にあり、それぞれで細かくなっています。その海外の様々なアイデアを取り上げられ、国際的な弁当のコンクールが開催されたりしています。私たちが身近にあり、特別なものではない弁当が、今、海外

【シリーズ】再発見！日本の文化

例えは、「弁当(bento)」、「漫画(manga)」、「俳句(haiku)」、「縁起物(yukigoto)」は、英語やフランス語などの発音に載っており、海外で受け入れられていることが分かります。本シリーズでは、この五つの日本の文化を取り上げ、五回にわたってその魅力を紹介します。今回は、弁当です。

で話になったのは、海外でも広く知られているものがあります。例えは、「弁当(bento)」、「漫画(manga)」、「俳句(haiku)」、「縁起物(yukigoto)」は、英語やフランス語などの発音に載っており、海外で受け入れられていることが分かります。本シリーズでは、この五つの日本の文化を取り上げ、五回にわたってその魅力を紹介します。今回は、弁当です。

のデパートの食器売り場でも、おしゃべりカラフルな弁当箱がたくさん売られています。さらに、料理をおいしく食べたいための優れた機能をもつ弁当箱もあります。例えは、日本にも古くからある「曲げわっぱ」という木製の弁当箱は、木が湿気を吸うので料理が腐りにくく、食べ物の風味が保たれるという利点があります。美しい木目や色合い、木の香りなども楽しめる「曲げわっぱ」は、海外でも広く知られています。海外でも広く知られる「曲げわっぱ」は、誰かのために作られたり、皆で持ち寄って和気あいあいと食べたりすることもあります。こうした



曲げわっぱの弁当

正答と主な誤答例の反応率	
正答	【解答類型1】 2、5と解答しているもの 反応率：60.3%（全国との差：-1.2）
主な誤答例	【解答類型2】 一つまたは複数選択する中で、2だけ正しく解答しているもの 反応率：14.0%（全国との差：+1.2）
	【解答類型3】 一つまたは複数選択する中で、5だけ正しく解答しているもの 反応率：2.8%（全国との差：-0.1）

＜解答類型別に見たつまずきと指導のポイント＞

解答類型2・3  
つまずき：文章の展開に即して必要な内容を過不足なく捉えることができていません。

【指導のポイント】  
説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉え、内容を的確に理解するように指導することが大切です。  
生徒が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要です。具体的には、「文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと」「説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること」「論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと」などの言語活動を通して指導することが効果的です。  
例えば、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて検討するなどの学習活動が考えられます。その際、小学校での学習を踏まえ、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むように指導することも大切です。

＜課題に対応したワークシート＞

- ・三重の学-Viva!!セット第13弾 「根拠を明確にして意見を書こう」 【第1学年】

# 小学校算数

## <分類・区分別集計結果>

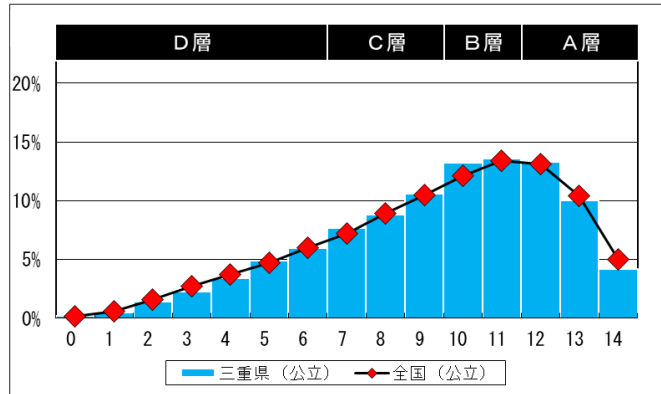
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域	数と計算	7	64.3(+1.1)
	量と測定	3	51.3(-1.6)
	図形	2	76.2(-0.5)
	数量関係	7	69.1(+0.8)
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-
	数学的な考え方	8	61.7(-0.5)
	数量や図形についての技能	4	75.9(+2.3)
	数量や図形についての知識・理解	2	68.4(-1.7)
問題形式	選択式	5	74.8(-0.9)
	短答式	5	75.2(+2.4)
	記述式	4	45.9(-1.5)

※表中の( )内の数値は全国平均との差を示します。

## <児童の正答数分布グラフ>

(横軸：正答数、縦軸：児童の割合)

	平均正答率	平均正答数	中央値	最頻値
本県	66.7	9.3問/14問	10.0問	11問
全国	66.6	9.3問/14問	10.0問	11問



## <今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることができています。

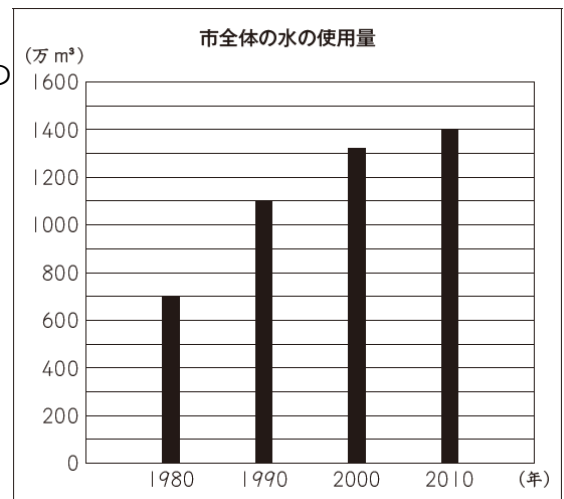
**大問2** 資料の特徴や傾向を読み取り判断すること(水の使用量) 【数と計算】 【数量関係】

設問(2)

2010年の市全体の水の使用量が、1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取る問題

- ・ 2(倍)と解答している

正答率：82.1% (全国差：+3.5)



加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができています。

**大問2** 資料の特徴や傾向を読み取り判断すること(水の使用量) 【数と計算】 【数量関係】

設問(4)

加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題

- ・ 7と解答している

正答率：66.0% (全国差：+5.9)

【かいとさんが考えた式】

$$6 + 0.5 \times 2 = 7$$



示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題があります。

### 大問3 計算の仕方の解釈と発展的な考察（計算の工夫）【数と計算】

設問（2）

示された計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を、「わられる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って書く問題

【前段で示された減法の計算の仕方についてまとめたこと】

ひき算では、  
 ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、  
 ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、  
 差は変わりません。  
 このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

この問題は、前段に示された減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを問うています。

ことねさんは、 $400 \div 25$  や  $90 \div 18$  のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思い、下のように考えました。

（正答例）

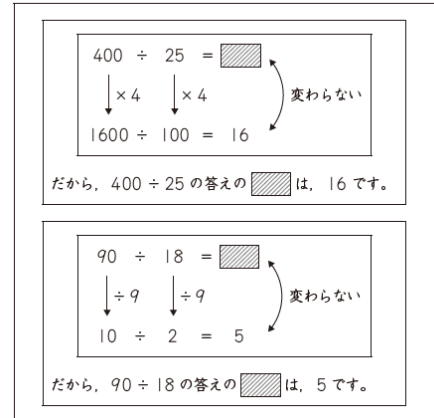
わり算では、

わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

正答率：29.6%（全国差：-1.5）

【ことねさんの計算の仕方】



正答と主な誤答例の反応率

正答の条件

- ① わられる数とわる数に同じ数をかけることを表す言葉を書いている
- ② わられる数とわる数を同じ数で割ることを表す言葉を書いている
- ③ 商が変わらないことを表す言葉を書いている

正答 【解答類型1】 ①②③の全てを書いているもの 反応率：29.5%（全国との差：-1.4）

【解答類型2】 ③を書き、①の同じ数をかけることと、②の同じ数で割ることについては、具体的な数を用いて書いているもの 反応率：0.2%（全国との差：±0.0）

主な誤答例 【解答類型8】 ①②を書いているもの 反応率：14.2%（全国との差：-1.0）

【解答類型3】 ①③または②③を書いているもの 反応率：6.7%（全国との差：+0.2）

※正答率は、【解答類型1】と【解答類型2】の合計です。それぞれの値は小数第2位を四捨五入したものであるため、それぞれの反応率の合計と正答率が一致していません。

#### <解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

解答類型8

つまずき：「商が変わらないこと」について、言葉を使って表すことができていません。

【指導のポイント】

児童が除法に関して成り立つ性質を具体的な数を用いて表現した場合、「どの数でも当てはまるようにまとめると、どのようになりますか。」などと問い返し、児童自らが見いだした除法に関して成り立つ性質を一般的に表現しようとする活動を多く取り入れることが大切です。

解答類型3

つまずき：「同じ数をかけること」「同じ数でわること」の両方について、言葉を使って記述できていません。

【指導のポイント】

被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げながら、見いだしたことが他の数値の場合でも成り立つかどうかを確認することができるようにすることが大切です。

#### <課題に対応したワークシート>

- ・平成28年度ワークシート 「小数×整数の計算のしかたを考えよう」 【第4学年】

# 中学校数学

## <分類・区別集計結果>

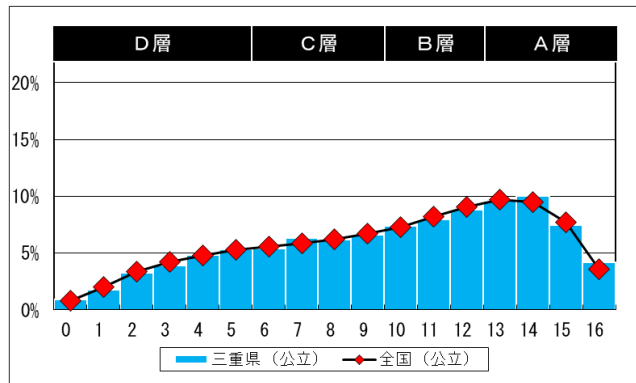
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域	数と式	5	62.8(-1.0)
	図形	4	73.2(+0.8)
	関数	3	42.9(+2.1)
	資料の活用	4	57.1(+0.8)
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-
	数学的な見方や考え方	8	51.4(+0.4)
	数学的な技能	3	65.0(+1.1)
	数量や図形などについての知識・理解	5	71.5(+0.2)
問題形式	選択式	5	59.9(-0.4)
	短答式	7	67.3(+0.7)
	記述式	4	48.4(+1.3)

※表中の( )内の数値は全国平均との差を示します。

## <生徒の正答数分布グラフ>

(横軸：正答数、縦軸：生徒の割合)

	平均正答率	平均正答数	中央値	最頻値
本県	60.3	9.6問/16問	10.0問	14問
全国	59.8	9.6問/16問	10.0問	13問



## <今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することができます。

**大問7** 証明することや反例をあげることを通して、統合的・発展的に考察すること(四角形の条件変え) 【図形】

### 設問(1)

証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題

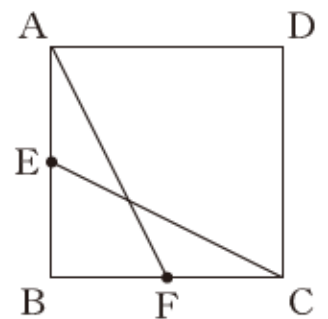
#### 予想1

正方形ABCDの辺ABの中点をE、辺BCの中点をFとすると、 $AF = CE$ になる。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

#### 証明

$\triangle ABF$ と $\triangle CBE$ において、  
 正方形の4つの辺はすべて等しいから、  
 $AB = CB$  ……①  
 点E、Fはそれぞれ辺AB、BCの中点だから、①より、  
 $BF = BE$  ……②  
 共通な角だから、  
 $\angle ABF = \angle CBE$  ……③  
 ①、②、③より、 がそれぞれ等しいから、  
 $\triangle ABF \equiv \triangle CBE$   
 合同な図形の対応する辺は等しいから、  
 $AF = CE$



・2組の辺とその間の角 と解答している。

正答率：78.9% (全国差：+3.1)

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。

**大問6** 事象の数学的な解釈と問題解決の方法（冷蔵庫）【関数】

設問（2）

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する問題

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000円	100000円	150000円
1年間あたりの電気代	15000円	11000円	6500円

(2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入してx年間使用するときの総費用をy円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」  
お姉さん「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」  
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

- ・アを選択し、方程式を解いて、使用年数の値を求めることについて書いている。

反応率：14.7%（全国差：-0.7）

または

- ・イを選択し、グラフの交点の座標から、使用年数の値を読み取ることについて書いている。

反応率：22.9%（全国差：+3.5）

正答率：37.7%（全国差：+3.0）



冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

※正答率は、アを選択した場合と、イを選択した場合の合計です。それぞれの値は小数第2位を四捨五入したものであるため、それぞれの反応率の合計と正答率が一致していません。

正答と主な誤答例の反応率

正答の条件

- ① アを選択し、方程式を解いて、使用年数の値を求めることについて書いているもの
- ② イを選択し、グラフの交点の座標から、使用年数の値を読み取ることについて書いているもの

正答 【①または②について記述しているもの】 反応率：37.7%（全国との差：+3.0）

主な誤答例【解答類型3、9】 アについては方程式を、イについてはグラフを用いることのみを記述しているもの 反応率：8.2%（全国との差：-1.0）

【解答類型4、10】 アについては使用年数の値を求めること、イについては使用年数の値を読み取ることのみを記述しているもの

反応率：2.0%（全国との差：+0.4）

<解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

解答類型3、9

つまずき：求める方法を説明する場面で、方程式やグラフの「用い方」を数学的に表現することができていません。

解答類型4、10

つまずき：求める方法を説明する場面で、「用いるもの」（方程式やグラフ）とその「用い方」の両方を指摘することができていません。

【指導のポイント】

様々な問題を数学を活用して解決したり、問題解決の過程を振り返ったりする上で、方法や手順を明確に記述したり、他者と協働的に解決しながら、自らの考えを伝え合ったりすることが大切です。その際、「用いるもの」（表、式、グラフ）とその「用い方」（交点の座標を読み取るなど）について明らかにできるように指導することが大切です。問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、「用いるもの」や「用い方」のいずれか一方の説明にとどまらず、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」とその「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導することが大切です。

また、問題解決の方法を振り返る場面では、方法を説明し合い、互いの説明を比較・検討する活動を取り入れることも考えられます。

<課題に対応したワークシート>

- ・三重の学-Viva!!セット第9弾「携帯電話の使用料金について考えてみましょう」【第2学年】
- ・平成28年度ワークシート「事象の数学的な表現と解釈と問題解決の方法」【第2学年】

# 中学校英語（「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」について）

## <分類・区分別集計結果>

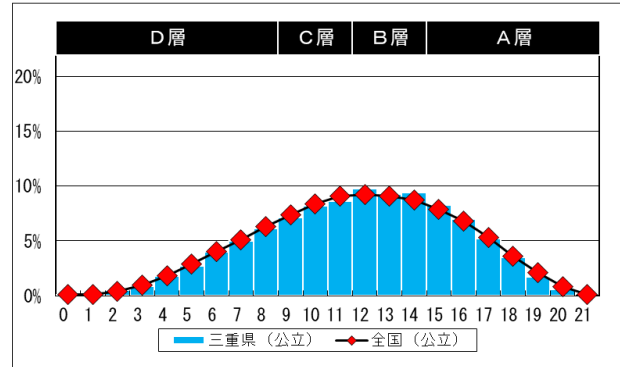
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域	聞くこと	7	67.1(-0.8)
	話すこと(参考値)		
	読むこと	6	54.5(-1.1)
	書くこと	8	47.5(+1.7)
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	-
	外国語表現の能力	1	1.8(+0.0)
	外国語理解の能力	6	43.7(-1.0)
	言語や文化についての知識・理解	14	65.2(+0.5)
問題形式	選択式	13	70.7(-0.7)
	短答式	5	47.6(+2.4)
	記述式	3	6.2(-0.6)

※表中の( )内の数値は全国平均との差を示します。

## <生徒の正答数分布グラフ>

(横軸：正答数、縦軸：生徒の割合)

	平均正答率	平均正答数	中央値	最頻値
本県	56.0	11.8問/21問	12.0問	12問
全国	56.0	11.8問/21問	12.0問	12問



## <今回の調査結果の主な特徴と具体的な設問>

文の中で適切に接続詞を用いることができます。

### 大問9 語や文法事項等を理解して正しく文を書く【書くこと】

#### 設問(1)

文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する問題

① Let's play tennis tomorrow ( ) it's sunny.

1 and      ② if      3 but      4 or

正答率：81.2% (全国差：+1.3)

② I saw a friend of mine at the station, ( ) I had no time to talk to him.

1 if      2 or      ③ but      4 because

正答率：58.9% (全国差：+0.7)

**大問 7** 説明文の大切な部分を読み取る【読むこと】

設問 チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する問題

Ms. Smith: Ichiro, why don't you read this article? It's interesting.  
 Ichiro: Oh, thank you, but it's all in English. That's difficult for me.  
 Ms. Smith: This newspaper is for students. Try reading it!  
 Ichiro: OK.

[A few minutes later]  
 Ms. Smith: What is the most important point in this article?  
 Ichiro: ( ).  
 Ms. Smith: Right. That is the main point.

[Ichiro reads the article.]

Chimpanzees are one of the smartest animals. They can do a lot of things. How smart are they? A team at a university in Japan found the answer. Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children in some ways.

Few animals can understand *janken*. In *janken*, none is the strongest among *rock*, *scissors*, and *paper*. Learning about the relation among the three is very difficult.

The team tried teaching *janken* to seven chimpanzees. They showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees. The chimpanzees got food when they pointed to the stronger one. Finally, five of the chimpanzees learned *janken*.

The team also tried teaching *janken* to some human children. They found that children could learn *janken* when they were about four years old. Through this study, they got the answer to the question: "How smart are chimpanzees?"

- ① Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children
- 2 Few animals can understand *janken*
- 3 The team showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees
- 4 The team found that children could learn *janken* when they were about four years old

正答率：31.1%（全国差：-1.7）

正答と主な誤答例の反応率			
正答	【解答類型 1】	1 と解答しているもの	反応率：31.1%（全国との差：-1.7）
主な誤答例	【解答類型 2】	2 と解答しているもの	反応率：20.7%（全国との差：+0.8）
	【解答類型 3】	3 と解答しているもの	反応率：28.0%（全国との差：+1.4）
	【解答類型 4】	4 と解答しているもの	反応率：19.2%（全国との差：-0.5）

<解答類型別に見たつまずきと指導のポイント>

解答類型 2・3・4

つまずき：前後の対話文を理解することができていないために、書き手が最も伝えたいことを選んでいないか、文章全体を読んだ上で、文中の“How smart are chimpanzees(they)?”という手掛かりを基に、書き手が最も伝えたいことを判断することができていません。

【指導のポイント】

説明文などの大切な部分を捉える際には、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断することが大切です。指導に当たっては、文章全体を漫然と読ませるのではなく、繰り返し用いられている語（句）や問いかけなどの手掛かりを基にして、最も大切な語句や文を選ばせたり、各段落の働きを理解させたりすることが重要です。

具体的な指導としては、教科書や他の題材を用いた、以下のような手順の言語活動が考えられます。

- ① 全体の大まかな内容を捉える
- ② 各段落の最も大切な内容を表す英文を選ぶ
- ③ それらを比較するなどして、文章の最も大切な部分について意見交換をする

このような活動を行う際には、日常的な話題にとどまらず、社会的な話題（自然環境問題や平和問題など）についての題材も扱うことが大切です。



# 中学校英語 授業改善のポイント

本年度、初めて中学校英語の「全国学力・学習状況調査」が実施され、新学習指導要領で育成すべき資質・能力が具体的に示されました。

この調査問題と、「全国学力・学習状況調査 授業アイデア例」（国立教育政策研究所教育課程研究センター）をもとに、授業改善のポイントを4技能（5領域）で、以下のようにまとめました。

新学習指導要領では、**言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することが求められています。**

## 1 聞くこと

### （1）明確な目的をもって聞かせる

新学習指導要領の「聞くこと」の目標は、以下の3つです。

- ①必要な情報を聞き取る
- ②話の概要を捉える
- ③要点を捉える

リスニングの前に、聞き取らせたいポイントを示し、どのような内容を聞き取るべきか考えながら取り組むことができるようにしましょう。

また、生徒と英語でやり取りをするなど、ステップを踏んで、「聞けるようになる指導」が必要です。英文を途中で区切ったり、ヒントを与えたりするのもよいでしょう。

### （2）授業は英語で行う

生徒が日常生活において英語に触れる機会は限られています。

教師は自然な口調の英語で語り掛け、日常的に生徒が聞いて理解する活動を繰り返し行いましょう。

### （3）技能を統合した言語活動を行う

聞いたことをもとに、話したり書いたりする活動を行いましょう。

## 2 読むこと

### （1）明確な目的をもって読ませる

新学習指導要領の「読むこと」の目標は、以下の3つです。

- ①必要な情報を読み取る
- ②文章の概要を捉える
- ③要点を捉える

一文ずつ解説しながら全体の理解につなげる読み方ではなく、目的に応じた読み方をしましょう。

### （2）同様の話題を扱った別の初見の英文も活用する

教科書のリスニング用の活動で使用されている英文（スクリプト）や、ALT作成の英文など、初見の英文を読む機会も作りましょう。

### （3）技能を統合した言語活動を行う

読んだことをもとに、話したり書いたりする活動を行いましょう。

### 3 話すこと（やり取り）

#### (1) 生徒が自分で考えながら話す機会を増やす

帯活動で Small Talk などに取り組み、自分の考えや気持ちを、即興でやり取りすることに慣れさせましょう。

#### (2) 文部科学省の資料を活用する

「中学校外国語科の移行期間における指導資料」に、帯活動についての年間計画や展開案が記載されています。（文部科学省のHPに掲載されています。）

\*各中学校に配付済（令和元年7月1日中学校英語教育推進一斉研修）



中学校外国語科の移行期間における指導資料（文部科学省HP）

### 4 話すこと（発表）

#### (1) 生徒が即興で話す機会を計画的に設定する

原稿を用意してから話すのではなく、話したい内容について、メモなどを見ながら話す活動を行いましょう。話し手として伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開、構成を考えて、それらをメモにとるなどして整理させるとよいでしょう。

### 5 書くこと

#### (1) 正確さは徐々に求めていく

言語の正確さを高めるためには、ある程度時間が必要であることに留意して、様々な場面で既習事項に触れたり考えたりする機会を設け、「最終的に身に付けていく」というスタンスで長期的に繰り返し指導しましょう。

#### (2) まとまりやつながりを大切にする

メモを活用しながら、初めは文単位から、徐々にまとまりのある文章に取り組みましょう。英語の文章の構成の特徴や接続詞や副詞などに着目させ、文や段落をつなげていきましょう。

#### (3) 口頭で伝える活動を行う

いきなり書くのではなく、自分の考えや気持ちをペアやグループで簡単な語句や文を用いて口頭で伝える活動をした後にその内容を書いてまとめる、といった言語活動を設定しましょう。

### 参考資料

・授業アイデア例には、授業改善のヒントがより詳しく掲載されています。参考にしてください。

**英語** 「即興で伝え合う力を高めよう」  
～聞いて把握した内容について、やり取りをする～

授業アイデア例

【言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する学習の流れ】

Interactive Teacher Talk → S-S Interaction 1 → Sharing → S-S Interaction 2

① 概略が会話の経緯、発展させるためのモデルを見せる Interactive Teacher Talk の活動事例

いきなり質問をするのではなく、会話自身のことを探る  
I like watching movies in my free time. It's a lot of fun. What do you usually do in your free time, everyone? How about you, Yuma? ... Sleeping?

最初の必要に応じてやり取りを調整させる（一人一人の英語の得意さに応じて対応）  
You usually sleep in your free time. I like sleeping, too. I also like walking (ジョギング) などと比べて my dog, too. Do you like dogs? ... No, cat!

やり取りを伸ばさないように、生徒の自信をとらえて英語で応答する  
Oh, you like cats! I see. Yuma, do you keep a cat in your house? Keep ... 猫? Oh, yes, I keep two oh ... no, three cats.

**英語** 「情報を正しく伝える力を高めよう」  
～与えられた情報に基づいて、3人称の英文を正しく書く～

授業アイデア例

【言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する学習の流れ】

1. Reporterになろう → 2. Editorになろう → 3. Writerになろう

1. Reporterになろう (1) ペアでそれぞれ異なる人物の情報を基に英文を書く (2) 書いた英文を交換し、聞き手として質問し、必要に応じて補足させる

2. Editorになろう 書いた英文を褒めたい・誇りたいように正しく訂正する

3. Writerになろう (1) ペアでそれぞれ異なる人物の情報を基に英文を書く (2) 書いた英文を交換し、聞き手として質問し、必要に応じて補足させる

目的 習得した材料を学習した知識を基に、長期的に繰り返し「書くこと」の言語活動及び指導を行い、正しく書く力を身に付ける

1. Reporterになろう (1) ペアでそれぞれ異なる人物の情報を基に英文を書く (2) 書いた英文を交換し、聞き手として質問し、必要に応じて補足させる

Today, you are reporters. First, please read the information and write about the person. Second, please check your English and tell about the person in pairs.

Mary's information (決まらなかったMaryについての情報)

名前: Mary  
性別: 女性  
国籍: Canada  
住んでいる国: Japan  
話せる言語: English and French  
好きなスポーツ: Soccer

Mary from Canada. She lives Tokyo. She can't speak Japanese. She speaks English and French. She can play soccer.



平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（中学校英語）

# 各設問の正答率、無解答率及び関連ワークシート一覧

## 小学校国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			正答率(%)		無解答率(%)		3点セットとの関連		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	三重県(公立)	全国(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	全国学力・学習状況調査との関連	みえスタディ・チェックとの関連	ワークシートとの関連
1一	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で(資料2)と(資料3)をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	5・6エ			71.4	71.2	0.3	0.5	H28 小 B2一 H28 小 B2二	H28 小5 第2回 4二	
1二	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える	5・6ウ			62.8	63.4	4.4	5.9	H30 小 B2三		学-Viva!!セット第11弾 「インタビューをもとに新聞記事を書こう」
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(1)に、(2) 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	5・6ウ			30.1	28.8	3.6	3.8	H29 小 B2三 H30 小 B2二		学-Viva!!セット第11弾 「目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書こう②」
1四(1)ア	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「――」部分を、漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う		5・6(1)ウ(ア)		43.7	41.9	6.9	8.2	H29 小 A7(1)		学-Viva!!セット第12弾 「漢字を読んだり、書いたりしよう」 学-Viva!!セット第13弾 「文の中で漢字を正しく使おう」 学-Viva!!セット第14弾 「漢字を読んだり、書いたりしよう」
1四(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「――」部分を、漢字を使って書き直す(友達にかざらず)			5・6(1)ウ(ア)		69.3	69.4	12.1	12.1			
1四(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の「――」部分を、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)			5・6(1)ウ(ア)		33.7	35.6	4.4	4.9			学-Viva!!セット第14弾 「漢字を読んだり書いたりしよう」
1四(2)	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「……」の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く		3・4(1)イ(ウ)		47.3	47.8	11.7	11.3	H25 小 A3二	H30 小5 第1回 1二(2)	学-Viva!!セット第7弾 「文と文をつなぐ言葉について考えよう」 H27 小4 「文と文をつなぐ言葉」
2一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の「ア」に入る、疑問に思ったこと①に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく		5・6ウ		80.6	80.7	0.7	1.4	H28 小 B3三 H30 小 B3二	H28 小5 第1回 二 H31 小4 第1回 三	H28 小4 「資料を読み取ろう」
2一(2)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の「イ」に、疑問に思ったこと②に対する答えになるように考えて書く				5・6ウ		77.7	75.9	5.0	5.0	H28 小5 第2回 4三 H30 小5 第1回 3一 H31 小4 第1回 3二 H31 小5 第1回 3二	学-Viva!!セット第13弾 「新聞記事を書こう」 学-Viva!!セット第14弾 「し料をもとに新聞記事を書こう」
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む		5・6イ		90.1	88.5	2.5	4.2	H26 小 B2三 H30 小 B3一	H28 小4 第1回 4三	
3一	豊職人への【インタビューの様子】の「ア」に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする		5・6エ		81.8	81.3	2.3	3.4	H28 小 B1二 H28 小 B1三	H30 小4 第1回 4	H28 小4 「話の中心に気をつけて聞き、しつ問しよう」 H30 小5 「話の展開に沿って質問しよう」
3二	豊職人への【インタビューの様子】の「……」の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	目的に応じて、質問を工夫する		5・6エ		67.8	67.4	3.0	4.2			
3三	【インタビューの様子】の「イ」に、豊職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる		5・6エ		69.4	68.2	13.4	14.2	H30 小 B1三	H29 小4 第1回 3	H27 小4 「質問をしたり感想を伝えたりしよう」
3四	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の「ウ」に入る適切なものを選択する(言より慣れよ)	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる		3・4(1)ア(イ)		73.1	73.0	6.3	7.9	H29 小 A5 H30 小 A6	H29 小5 第2回 1三	

# 中学校国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率(%)		無解答率(%)		3点セットとの関連		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	三重県(公立)	全国(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	全国学力・学習状況調査との関連	みえスタディ・チェックとの関連	ワークシートとの関連
1一	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ			2ウ		62.8	63.9	0.2	0.1		H29 中2 第2回 3一	
1二	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1イ		60.3	61.5	0.1	0.1	H27 中 B2二 H28 中 B2二 H30 中 B1三	H27 中2 第1回 3一 H28 中2 第1回 2一 H29 中2 第1回 3二	学-Viva!!セット 第11弾 「必要な情報を整理して書こう」
1三	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ			1オ		91.6	91.2	1.4	1.7		H28 中1 第1回 3二(2) H29 中2 第2回 2二	
1四	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く			1(2)ア		53.4	56.8	6.0	5.6	H24 中 A7五		学-Viva!!セット 第14弾 「手紙の書き方を知ろう」
2一	話し合いでの発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える			1オ		77.9	80.4	0.3	0.2		H29 中2 第1回 2一 H30 中2 第1回 2一	
2二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	相手に分かりやすく伝わる表現について理解する			1ウ		67.6	69.7	0.3	0.3		H28 中2 第1回 4二	学-Viva!!セット 第13弾 「引用して、自分の考えを書こう」 【小学校】
2三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ			1オ		61.9	60.4	8.2	8.9		H29 中2 第1回 2三 H31 中1 第1回 2二	
3一	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する			2エ		86.2	87.4	0.4	0.4		H31 中2 第1回 2二	
3二	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く			1ウ		77.2	77.8	7.6	7.9	H28 小 B2二 (1)、(2)	H28 中1 第1回 2二	学-Viva!!セット 第13弾 「根拠を明確にして意見を書こう」
4	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する			1(1)イ(ウ)		77.8	78.7	1.2	1.2			

# 小学校算数

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)		無解答率(%)		3点セットとの関連		
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	三重県(公立)	全国(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	全国学力・学習状況調査との関連	みえスタディ・チェックとの関連	ワークシートとの関連
1(1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	台形について理解している			4(1)アイ		92.5	93.1	0.1	0.1	H23 小 A6	H30 小5第2回4(1) H31 小4第1回4(2)	学-Viva!!セット第8弾 「四角形を調べよう」 学-Viva!!セット第13弾 「どんな図形ができるかな」
1(2)	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる			4(1)イ 5(1)イ		59.9	60.3	0.4	0.6	H28 小 A6 H28 小 B5(2) H30 小 B1(1)	H29 小5第1回3(2)	
1(3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる			5(1)ア		40.1	43.9	6.4	6.7	H28 小 B5(1)	H27 小5第2回3(1)	
2(1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる				3(3)ア	95.6	95.2	0.1	0.2	H21 小 B5(2)	H31 小5第1回5(3) H30 小5第2回5(1) H28 小5第2回3(1)	学-Viva!!セット第13弾 「グラフを読み取ろう」
2(2)	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く	2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる			4(3)イ		82.1	78.6	0.6	1.0	H26 小 B2(1)	H28 小5第2回1(3)	
2(3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだだけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる			5(4)ア	3(3)ア	51.3	52.1	1.8	2.0	H21 小 B5(3)	H29 小5第2回5(2)	学-Viva!! セット第7弾 「(小5)【数量関係】グラフの問題」
2(4)	洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる			4(5)ウ	4(2)ア	66.0	60.1	0.7	1.0	H29 小 A2(3)	H30 小5第2回1(1) H29 小5第2回1(2)	学-Viva!! セット第12弾 「計算のきまり」 学-Viva!!セット第7弾 「計算の順序ときまり」
3(1)	350-97について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる			3(2)イウ		83.2	81.8	0.9	0.9			
3(2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなものかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる			3(2)ウ 4(3)エ		29.6	31.1	11.1	10.8	H28 小5第2回1(1) H31 小5第1回2(1)	H28 小4	「小数×整数の計算のしかたを考えよう」
3(3)	被除数と除数にける数や割る数を選び、 $600 \div 15$ を計算しやすい式にして計算する	示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる			4(3)イエ		75.0	74.9	1.9	2.1	H28 小 A1(2)	H28 小5第1回1(2) H31 小5第1回2(1)	
3(4)	$1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している			5(3)アイウ	3(1)	44.3	47.0	1.8	2.2	H29 小 A1(3) H28 小 B3(1) H25 小 B2(1)		
4(1)	だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要がある事柄を選ぶ	目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる				4(1)	81.7	82.7	1.6	1.7	H28 小 B4(1) H25 小 B5(1)		
4(2)	何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求め式を書く	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる			3(3)イ		69.8	68.6	4.3	4.4	H29 小 B2(1)		
4(3)	残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分以内にレジに着くことができるかどうかを判断する	場面の状況から、単量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる			5(4)ア	5(1)ア	62.6	62.6	3.2	3.5	H28 小 A4		

# 中学校数学

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)		無解答率(%)		3点セットとの関連		
			数と式	図形	関数	資料の活用	三重県(公立)	全国(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	全国学力・学習状況調査との関連	みえスタディ・チェックとの関連	ワークシートとの関連
1	αとβが正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるものは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	1(1)ア				59.9	62.2	0.1	0.2	H23 中 A1(2) H25 中 A1(3)	H30 中2 第1回 1(2)	学-Viva!セット第10弾 「これまでの学習を確認しよう④(数と式)」
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ				70.6	70.1	4.2	5.1	H27 中 A3(4) H29 中 A3(4) H30 中 A3(3)	H27 中2 第2回 1(6)	宿題用学-Viva!セット「これまでの復習をしよう①」 H30中2 「連立方程式」
3	△ABCを、矢印の方向に△DEFまで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動の意味を理解している	1(1)イ				82.8	83.6	0.6	0.7	H27 中 A4(2) H29 中 A4(2)	H27 中2 第2回 2(2) H31 中2 第1回 4(1)	学-Viva!セット第7弾 「図形の移動について考えよう」 学-Viva!セット第9弾 「三角形の移動を考えよう」 学-Viva!セット第10弾 「これまでの学習を確認しよう⑤(数と式・平面図形)」
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、xとyの関係を式で表すことができる			1(1)エ		51.6	48.9	8.1	10.4	H21 中 A10(2)		学-Viva!セット第12弾 「反比例のグラフ」 学-Viva!セット第13弾 「比例・反比例、一次関数(変化の割合など)」 学-Viva!セット第14弾 「比例・反比例(表・式・グラフ)」
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる			2(1)ア		72.8	72.8	2.9	3.3	H28 中 A13(2) H29 中 A15(2) H30 中 A15(2)		学-Viva!セット第13弾 「確率」 H29中2 「確率を求めよう」
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差を表すものを選ぶ	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる			2(1)イ、エ		39.4	38.8	0.3	0.3			
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1)イ、エ		37.7	34.7	10.0	11.6	H28 中 B3(3)	H27 中2 第2回 5(3) H29 中2 第2回 4(3) H30 中2 第2回 4(3)	学-Viva!セット第9弾 「携帯電話の使用料金について考えてみましょう」
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2)ア				78.9	75.8	4.3	5.2	H26 中 A7 H27 中 A7(2) H29 中 A7(1)		学-Viva!セット第7弾 「図形の証明を考えよう」 学-Viva!セット第13弾 「図形の証明・図形の性質」 H30中2 「証明の利用」
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	反例の意味を理解している	2(2)イ				77.1	77.2	0.5	0.5		H28 中2 第2回 3	
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(2)ウ				54.2	53.3	15.9	17.6			学-Viva!セット第13弾 「図形の証明・図形の性質」
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる			1(1)ア		58.8	57.9	10.0	10.6	H24 中 A15(2) H28 中 A12(1)	H27 中2 第1回 2(10) H29 中2 第1回 5(1) H29 中2 第2回 3(1)	学-Viva!セット第10弾 「これまでの学習を確認しよう⑧(数と式・資料の活用)」 学-Viva!セット第13弾 「範囲と最頻値・中央値」 宿題用学-Viva!セット 「これまでの学習を確認しよう①」 H30中1 「度数の分布と代表値」
8(2)	「1日に26分くらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1)イ		43.0	40.8	20.5	21.3	H27 中 B5(2) H28 中 B5(1)	H27 中2 第2回 7(3) H28 中2 第2回 6(2)	学-Viva!セット第8弾 「全国の平均寿命を比べよう」 学-Viva!セット第14弾 「資料の傾向をとらえて説明しよう」
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる			1(1)ア、イ		53.8	53.6	1.2	1.0	H29 中 B5(2)	H30 中2 第2回 5(1) H31 中2 第1回 5(1)	
9(1)	説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に变形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	2(1)イ、ウ				55.7	57.4	8.9	9.5	H23 中 B2(2)		
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1)イ、ウ				58.6	59.7	16.9	17.8	H23 中 B2(3) H24 中 B2(1) H27 中 B2(2)	H27 中2 第1回 4(2)	H30中1 「碁石の数を表そう」
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	2(1)イ、ウ				69.2	69.6	2.0	1.9			

# 中学校英語

## ●聞くこと、読むこと、書くこと

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)		無解答率(%)		ワークシートとの関連
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	三重県(公立)	全国(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)				90.2	91.1	0.1	0.2	
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)				88.0	88.6	0.1	0.1	
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)				73.2	72.3	0.2	0.2	
1 (4)	家で会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)				59.5	61.8	0.2	0.2	
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	(7)				70.7	71.8	0.2	0.2	
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	(7)				80.8	82.0	0.2	0.2	学-Viva!!セット第12弾 「会話の要点を聞き取ろう」
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	(7)				7.0	7.6	39.9	42.3	学-Viva!!セット第13弾 「提案に対する自分の考えを簡潔に書こう」 学-Viva!!セット第14弾 「聞いた内容についてあなたのアドバイスを書こう」
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)		78.7	79.4	0.1	0.2	学-Viva!!セット第12弾 ・「何についての説明かを考えよう」 ・「内容について理解しよう(交換留学生との交流会)」
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)		72.2	74.4	0.2	0.2	・「内容について理解しよう(「みえび展」案内チラシ)」 ・「表から必要な情報を読み取ろう(部活動活動場所)」
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)		72.3	73.1	0.4	0.4	学-Viva!!セット第13弾 ・「表から必要な情報を読み取ろう(テレビ番組表)」 ・「何についての説明かを考えよう」
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる			(7)		62.7	62.9	0.4	0.4	学-Viva!!セット第13弾 「話の流れをつかもう」
7	テンバナーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる			(7)		31.1	32.8	1.0	1.0	
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる			(7)		9.9	10.9	26.0	27.9	学-Viva!!セット第13弾 「自分の考えと理由を伝えよう」
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(7) (4)		81.2	79.9	0.2	0.3	
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(7) (4)		58.9	58.2	0.4	0.5	
9 (2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる			(7) (4)		75.6	73.6	3.7	4.4	
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)		28.5	28.9	11.4	12.6	
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)		59.1	53.5	5.1	6.4	
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)		32.2	32.9	8.3	9.3	学-Viva!!セット第14弾 「情報に基づいて説明しよう」
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる			(7) (4)		42.4	37.4	8.8	10.5	
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる			(7)		1.8	1.8	7.4	8.3	学-Viva!!セット第12弾 「読み手を意識して書こう」

## 第2章 児童生徒・学校質問紙調査の結果

### 自己肯定感、挑戦心、達成感に関する状況

多くの大人が関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。

「自分には、よいところがあると思いますか。」との質問に対し、肯定的（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」）に回答した小中学生の割合は、昨年度より減少したものの増加傾向にあり、中学生は全国平均を上回っています。こうした状況は「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」等の質問に対し、肯定的に回答した小中学生の割合が、全国平均を上回っていることからわかるように、子どもたちの学びに寄り添ったきめ細かな指導等によるものと考えます。

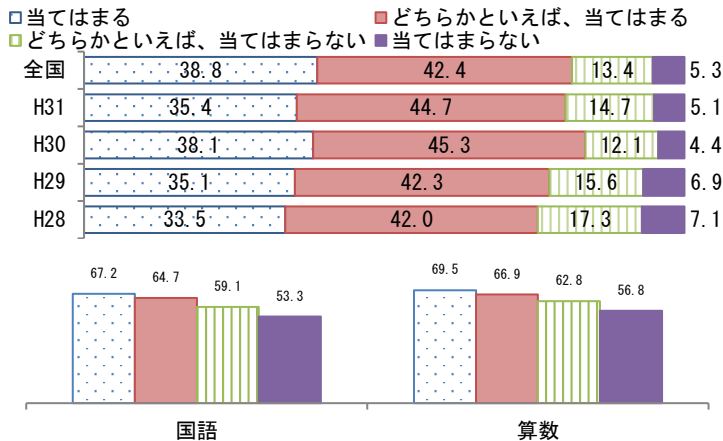
今後も、子どもたちが、学校・家庭・地域での様々な学びの場をとおして、「できるようになった」という達成感を積み重ね、自己肯定感を高めることができるよう、多くの大人が関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。

#### <グラフの見方>

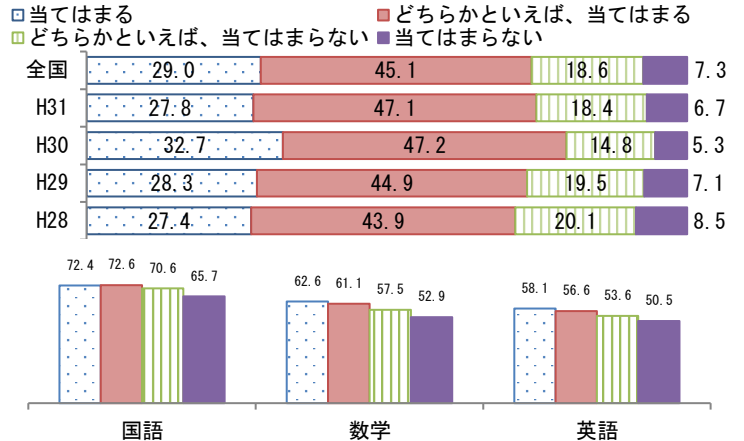
- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する本県の回答別の平均正答率（H31年度）を示します。
- ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

### 【児童生徒質問紙】（5）自分には、よいところがあると思いますか。

#### 小学生

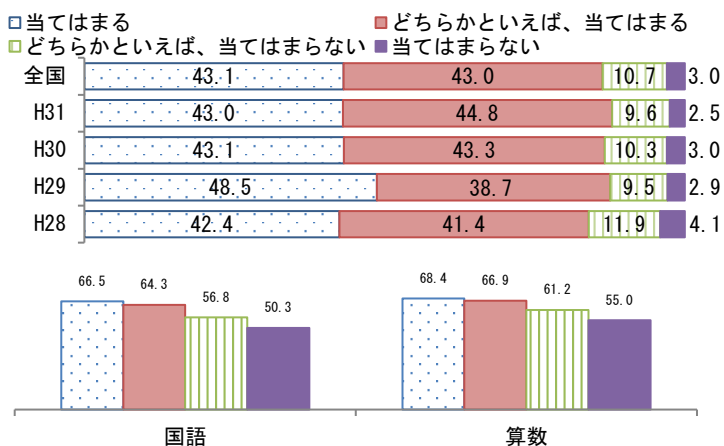


#### 中学生

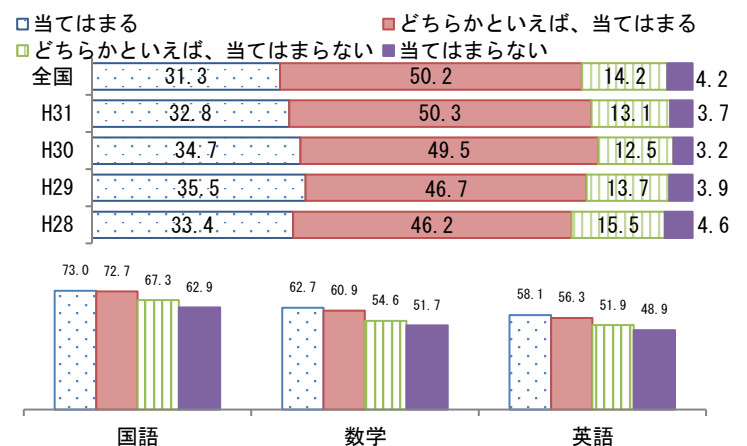


### 【児童生徒質問紙】（6）先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

#### 小学生



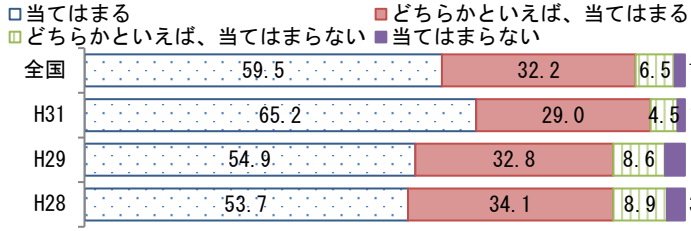
#### 中学生



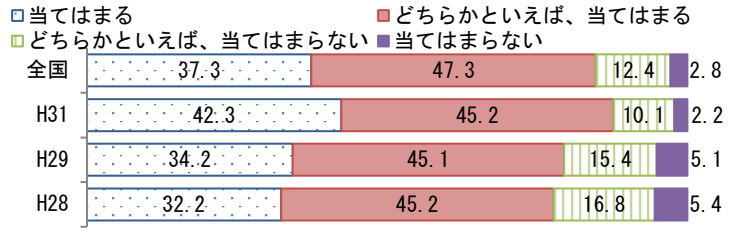


【児童生徒質問紙】（7）先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

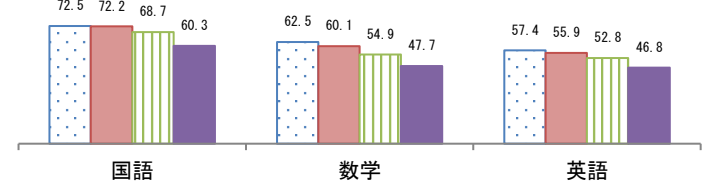
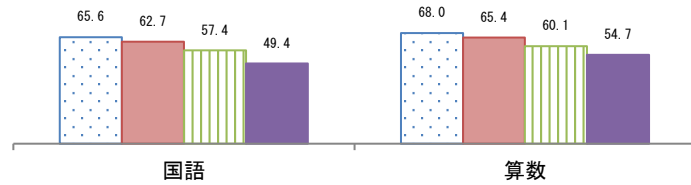
小学生



中学生

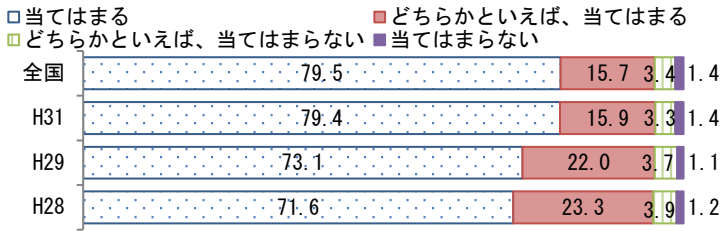


※平成30年度は質問項目にありません。



【児童生徒質問紙】（9）ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

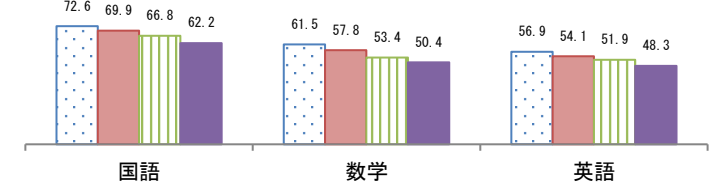
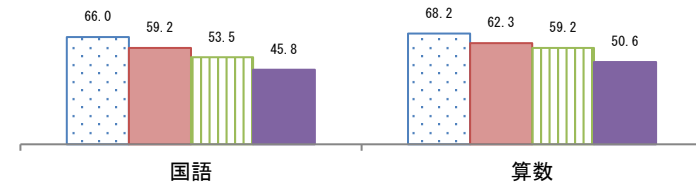
小学生



中学生

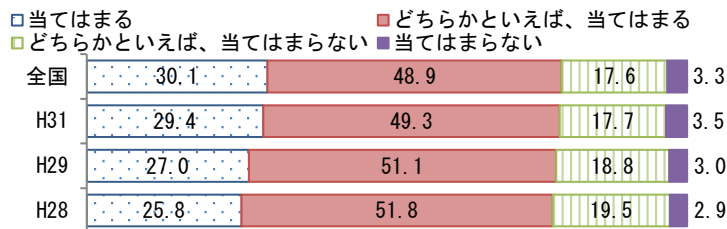


※平成30年度は質問項目にありません。

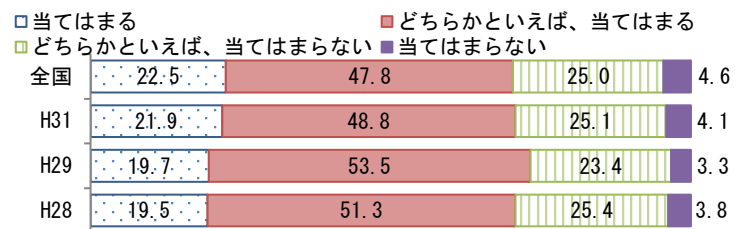


【児童生徒質問紙】（10）難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。

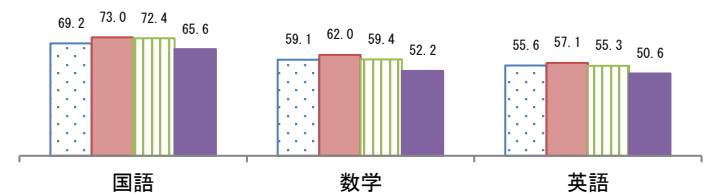
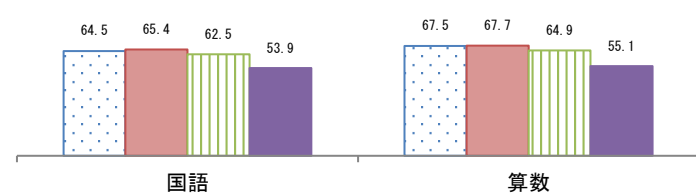
小学生



中学生



※平成30年度は質問項目にありません。



## 規範意識に関する状況

子どもたち一人ひとりの学習活動が保証されることが、平均正答率に影響していると考えられます。

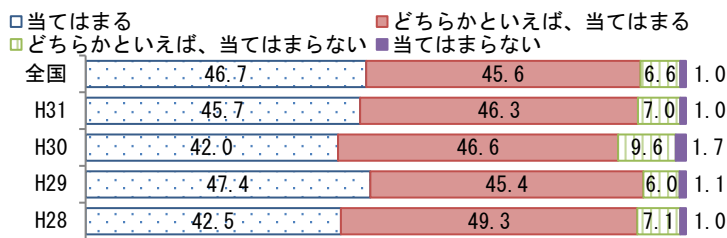
「学校のきまり（規則）を守っていますか」との質問に肯定的に回答した小中学生の割合は、昨年度より増加しています。

各教科とも、きまり（規則）を守っている小中学生ほど平均正答率が高い傾向が見られ、小学校国語、中学校国語・数学では、「当てはまる」と回答した小中学生と「当てはまらない」と回答した小中学生の平均正答率の差は20ポイント以上ありました。

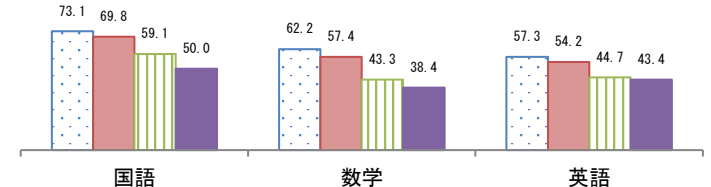
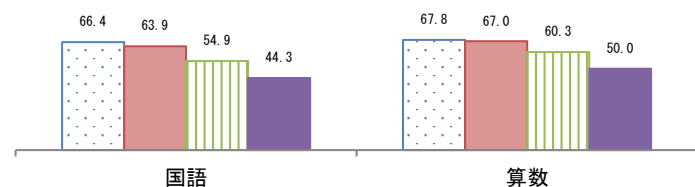
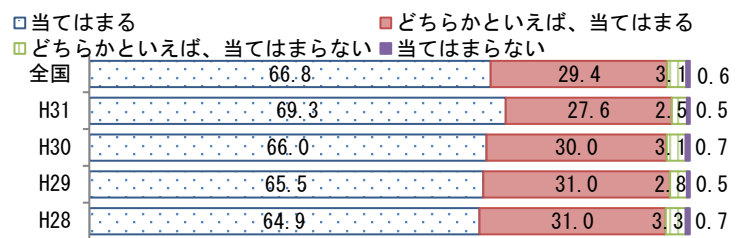
授業規律が守られているクラスでは、子どもたち一人ひとりの学習活動（考えたり、表現したりすること）が確実に保証されることから、平均正答率に影響していると考えられます。

### 【児童生徒質問紙】 (13) 学校のきまり（規則）を守っていますか。

#### 小学生



#### 中学生



## 家の人との対話に関する状況

お互いに考えていることを語り合うといった時間を大切にしましょう。

「家の人と学校での出来事について話をしますか」との質問に肯定的に回答した小中学生の割合は、中学生では平成28年度以降増加していますが、小中学生ともに全国平均を下回る状況にあります。

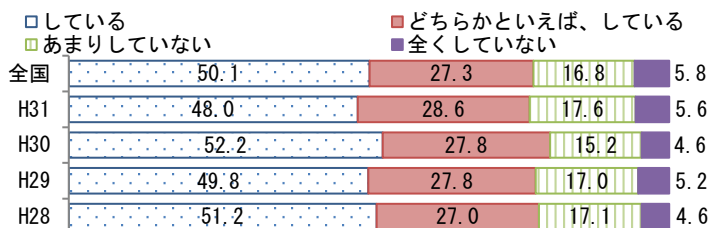
対話をしている小中学生と全くしていない小中学生の平均正答率を比較すると、小中学校全ての教科において差が見られます。

子どもは、ふだんの何気ない家の人との対話やふれ合いから、多くのことを受け取っています。対話をとおして、子どもの「聴いてもらった」「分かってもらった」「認めてもらった」という気持ちがふくらみ、子どもに安心感が生まれ、信頼関係が深まります。

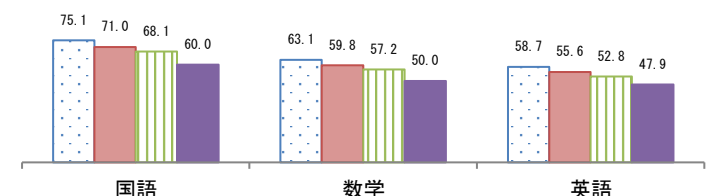
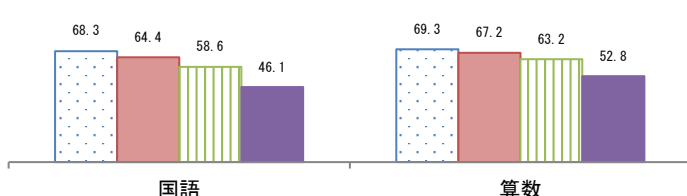
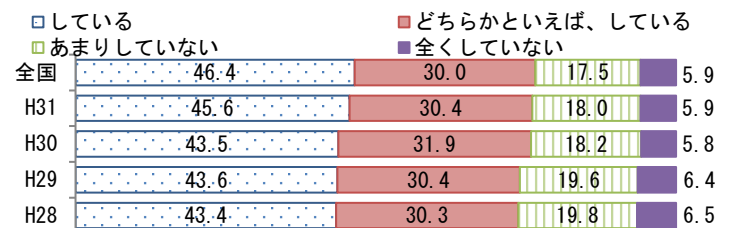
子どもの成長とともに、子どもとの対話が少なくなりがちです。夕食時や週末などに学校での出来事や、お互いに考えていることを語り合うといった時間を大切にしましょう。

### 【児童生徒質問紙】 (4) 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

#### 小学生



#### 中学生



## 学習習慣に関する状況

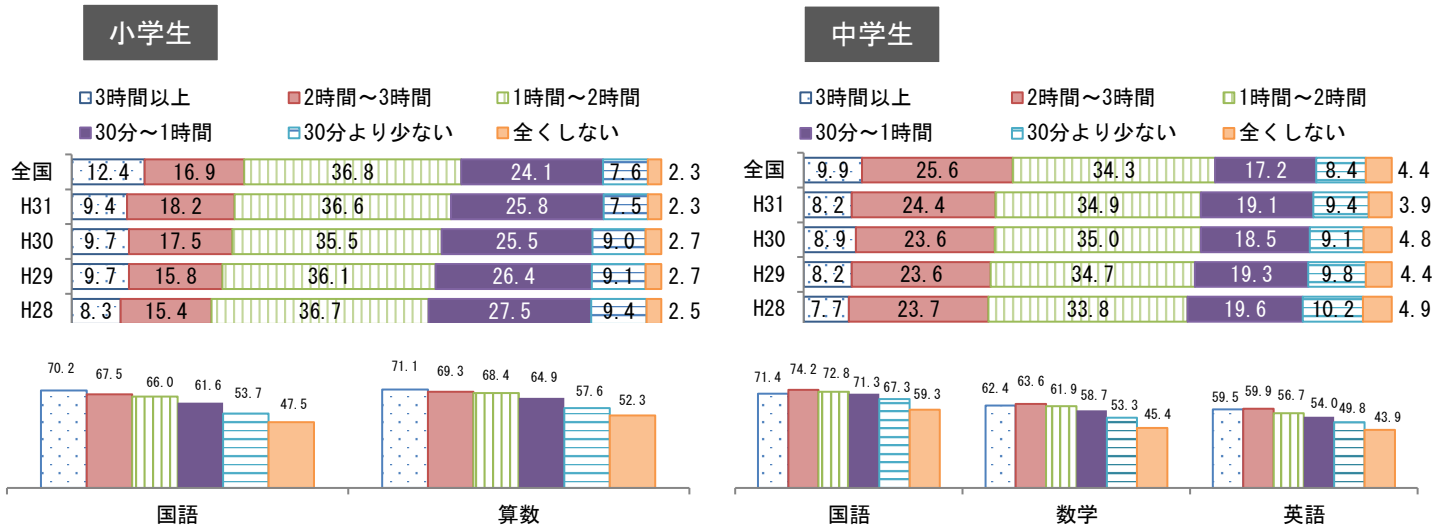
1時間以上を目安に、学習習慣を身に付けていくことが大切です。

平日に1時間以上勉強している小中学生の割合は、平成28年度以降増加傾向にあります。全国平均を下回る状況が続いています。

「1時間以上学習している」と回答した小中学生の平均正答率は、全教科で全国平均以上となっています。なお、中学生では、学習時間が「2時間以上3時間未満」と回答した生徒の平均正答率が全ての教科で最も高くなっています。「3時間以上」と回答した生徒は睡眠時間が短く、翌日の授業に集中できていないことが考えられます。

1時間以上を目安に、学習習慣を身に付けていくことが大切です。

【児童生徒質問紙】(18) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



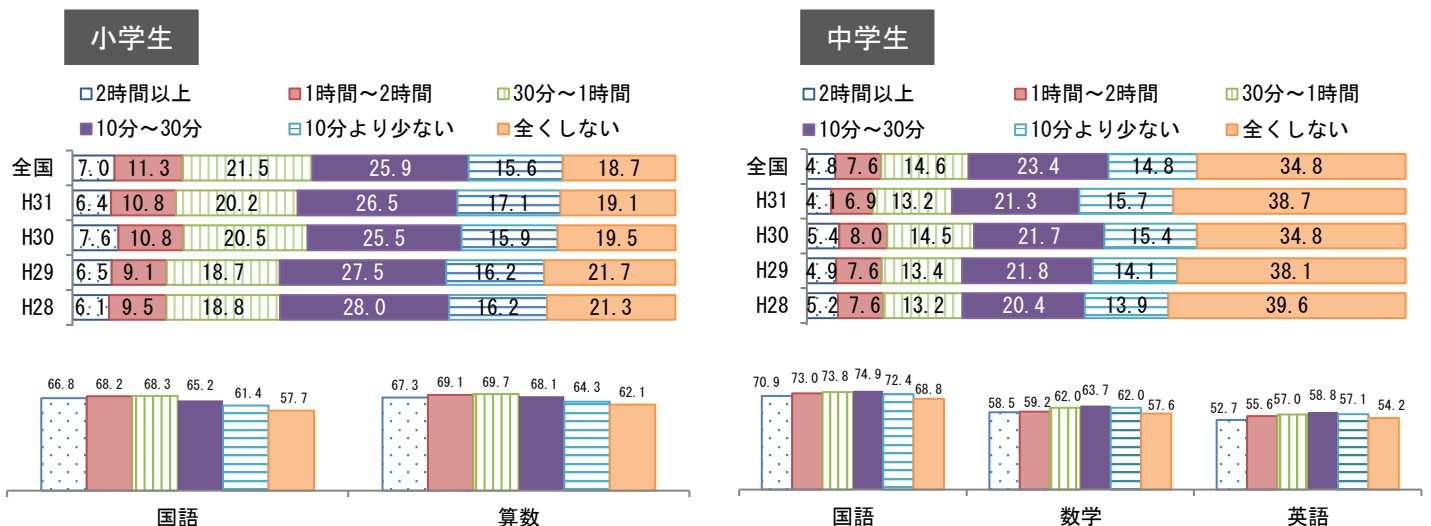
## 読書習慣に関する状況

毎日10分～30分でも、継続していくことが大切です。

平日に10分以上読書をしている小中学生の割合は、昨年度に比べて減少し、全国平均を下回っている状況です。10分以上読書をしている小学生の平均正答率は、国語、算数ともに全国平均を上回っています。また、「10分～30分」「30分～1時間」と回答した中学生の平均正答率は、各教科で全国平均を上回っています。

子どもが本に親しむ原点は「楽しさ」です。家庭は子どもが読書と出会うきっかけをつくる大切な場です。その大切な場で子どもたちが、読書を楽しみ、自ら読書に親しめるよう、大人と子どもと一緒に読書に親しむ「家読(うちどく)」に取り組んでいきましょう。

【児童生徒質問紙】(19) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



# 教科に対する意識等に関する状況（国語、算数・数学について）

## ① 小学生の興味関心と小学校における指導

国語、算数が「好き」と回答した小学生ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

国語と算数に関する小学生の興味関心は、肯定的に回答した割合が増加傾向にあります。国語、算数ともに、前年度からすべての項目において「当てはまる」と回答した割合が増加しており、平成 28 年度からの過去 4 年間で最も高くなりました。また、「国語の勉強/算数の勉強が好き」と回答した小学生の方が平均正答率が高い傾向が見られました。

学校における指導状況は、国語の「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか」、算数の「実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」「計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか」の質問に対して、「よく行った」と回答した割合が増加しています。

### 児童質問紙

### 学校質問紙

#### 小学校

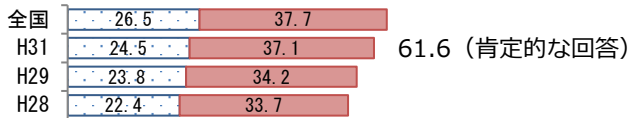
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った

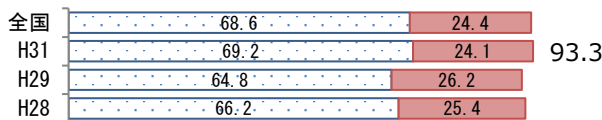
### 【国語】 小学生の興味関心と学校の指導状況

※平成 30 年度は、国語の調査項目はありません

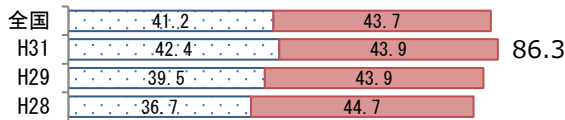
#### 国語の勉強は好きですか。



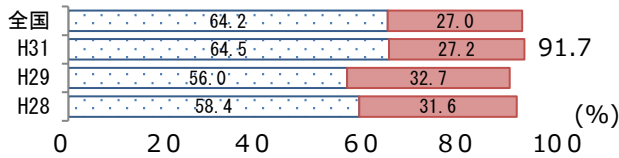
#### 国語の勉強は大切だと思いますか。



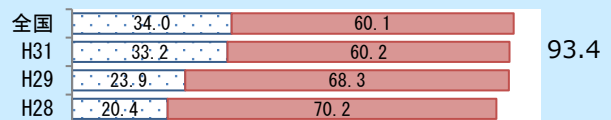
#### 国語の授業の内容はよく分かりますか。



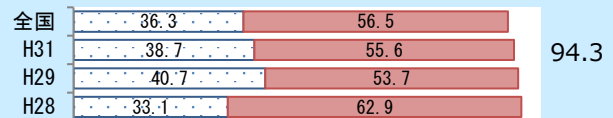
#### 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



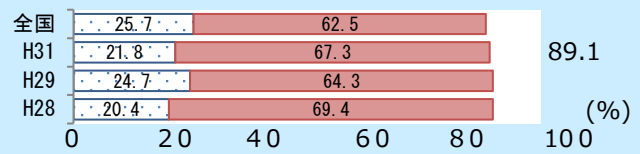
#### 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。



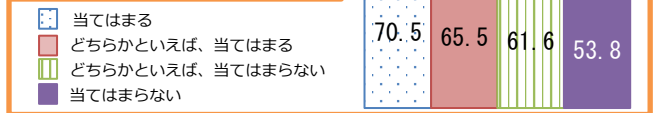
#### 書く習慣を付ける授業を行いましたか。



#### 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。

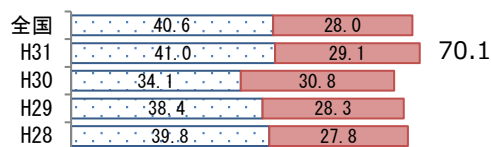


#### 「国語の勉強は好きか」の選択肢毎の国語の平均正答率

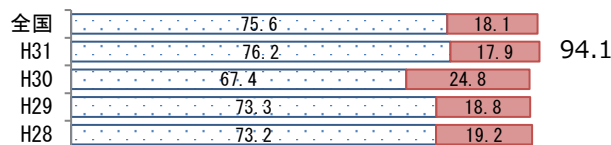


### 【算数】 小学生の興味関心と学校の指導状況

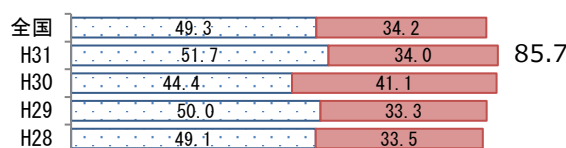
#### 算数の勉強は好きですか。



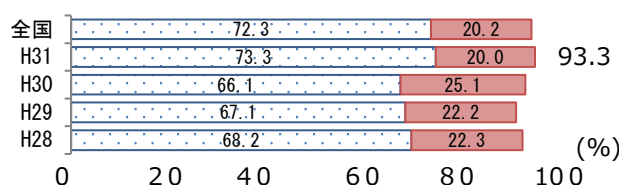
#### 算数の勉強は大切だと思いますか。



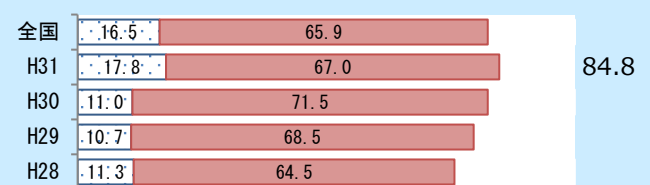
#### 算数の授業の内容はよく分かりますか。



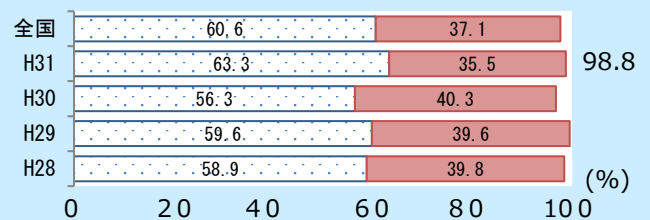
#### 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



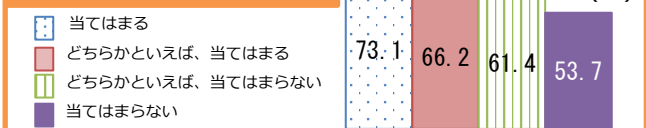
#### 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



#### 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。



#### 「算数の勉強は好きか」の選択肢毎の算数の平均正答率



# 教科に対する意識等に関する状況（国語、算数・数学について）

## ② 中学生の興味関心と中学校における指導

国語、数学が「好き」と回答した中学生ほど、平均正答率が高い傾向にあります。

国語と数学に関する中学生の興味関心は、いずれの項目も肯定的な回答の割合が、平成 28 年度からの過去 4 年間で最も高くなりました。また、「国語の勉強/数学の勉強が好き」と回答した中学生の方が平均正答率が高い傾向が見られました。特に数学では、「数学の勉強は好きですか」との質問に対し、「当てはまる」と回答した割合と「当てはまらない」と回答した割合の差が 22 ポイントありました。

学校における指導状況は、国語の「書く習慣を付ける授業を行いましたか」において、「よく行った」と回答した中学校の割合が平成 29 年度に比べて 8.6 ポイント増加し、全国平均を上回る結果となりました。

### 生徒質問紙

### 学校質問紙

#### 中学校

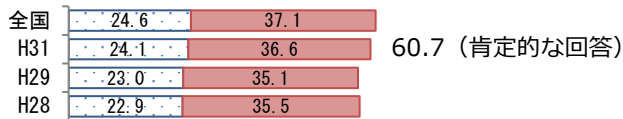
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った

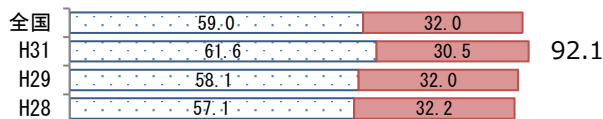
### 【国語】 中学生の興味関心と学校の指導状況

※平成 30 年度は、国語の調査項目はありません

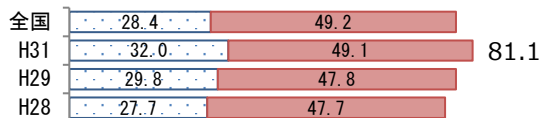
#### 国語の勉強は好きですか。



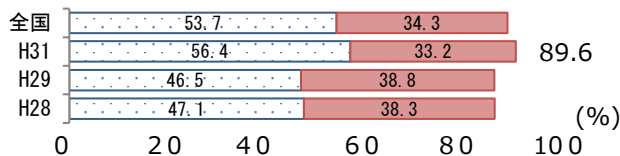
#### 国語の勉強は大切だと思いますか。



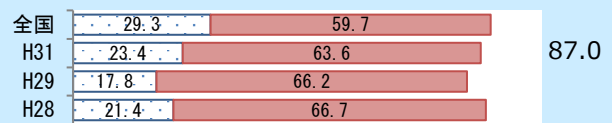
#### 国語の授業の内容はよくわかりますか。



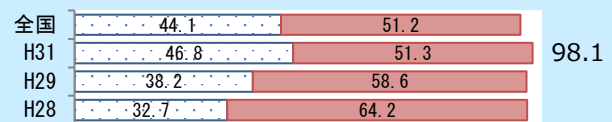
#### 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



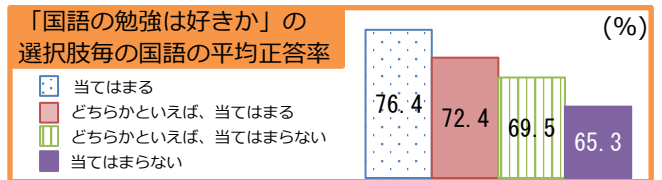
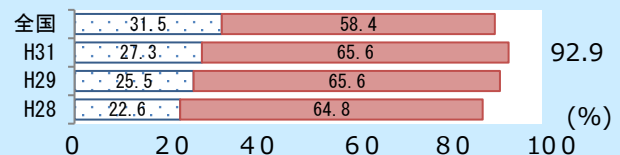
#### 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。



#### 書く習慣を付ける授業を行いましたか。

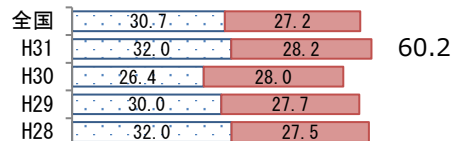


#### 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。



### 【数学】 中学生の興味関心と学校の指導状況

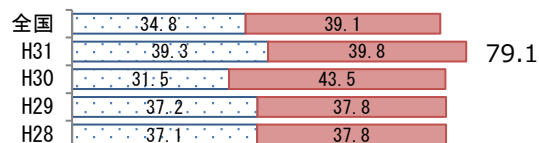
#### 数学の勉強は好きですか。



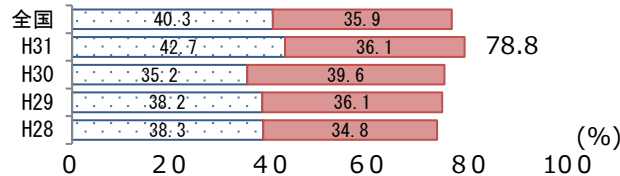
#### 数学の勉強は大切だと思いますか。



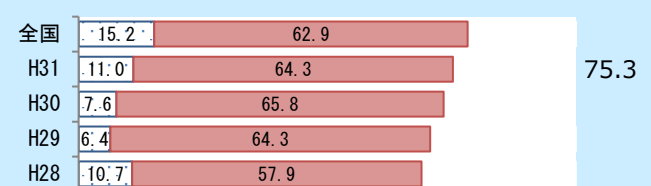
#### 数学の授業の内容はよくわかりますか。



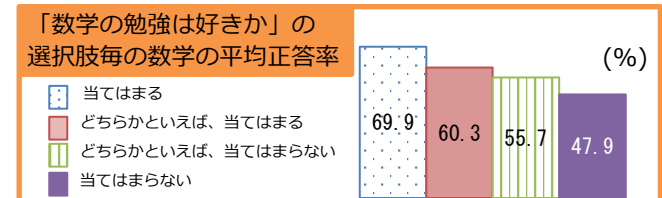
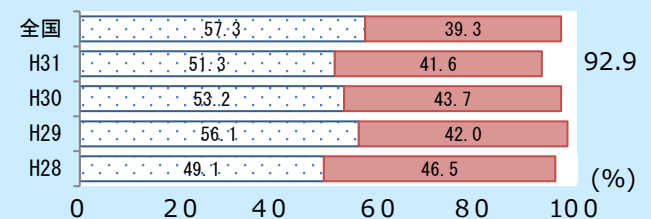
#### 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



#### 実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



#### 計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか。



## 教科に対する意識等に関する状況（中学校英語について） 中学生の興味関心等

英語によるコミュニケーション力を  
付ける指導を！

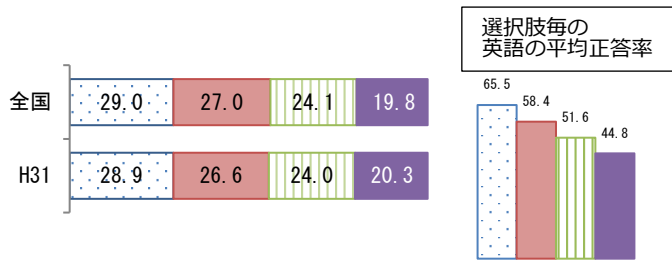
「英語の授業は好きですか」「英語の授業はよく分かりますか」との質問に対し、肯定的に回答した中学生の割合は、それぞれ55.5%、69.3%で、他教科よりやや低い状況です。

一方で、「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に対し、肯定的に回答した中学生の割合は86.3%で全国平均より高い状況です。さらに「当てはまる」と回答した中学生の割合は60.8%で、他教科より高い状況であり、多くの中学生が社会に出た時の重要性を認識しています。

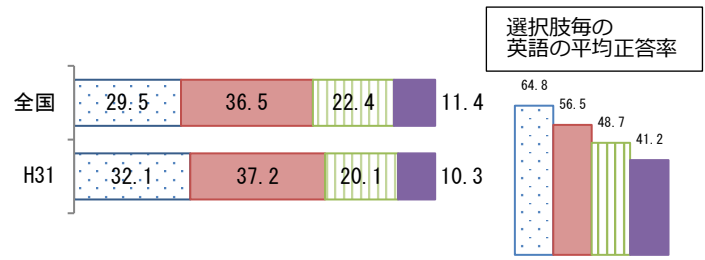
今後、中学校の英語の指導については、内容の理解だけにとどまらず、内容に対する答えを英語で話したり書いたりできるようにする、英語によるコミュニケーション力を付ける指導が重要となってきます。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

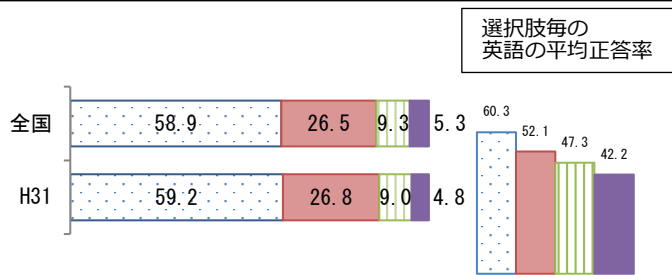
### 【生徒質問紙】英語の勉強は好きですか。



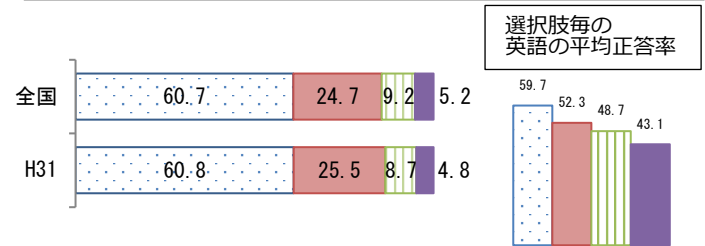
### 【生徒質問紙】英語の授業はよく分かりますか。



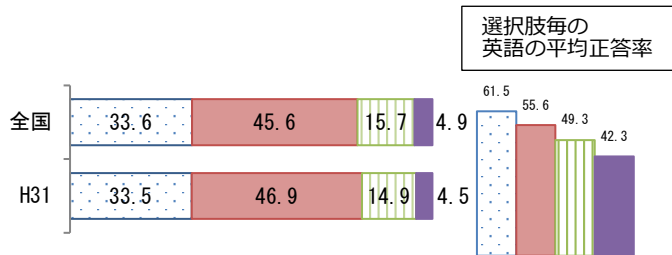
### 【生徒質問紙】英語の勉強は大切だと思いますか。



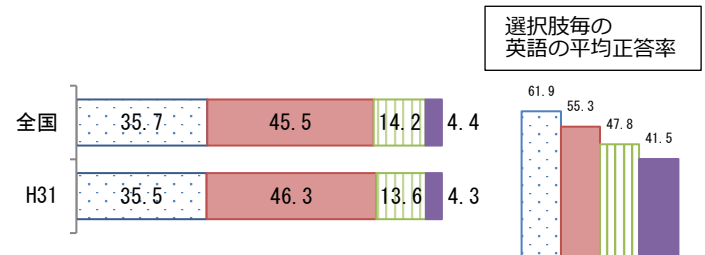
### 【生徒質問紙】英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



【生徒質問紙】1・2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



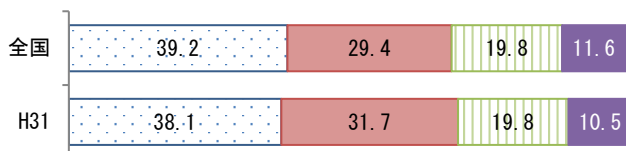
【生徒質問紙】1・2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



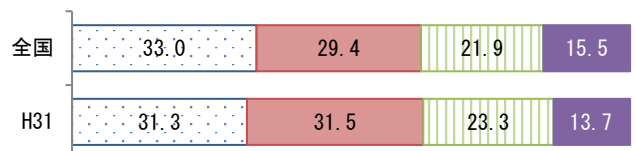
### 【児童生徒質問紙】外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

#### 小学生



#### 中学生



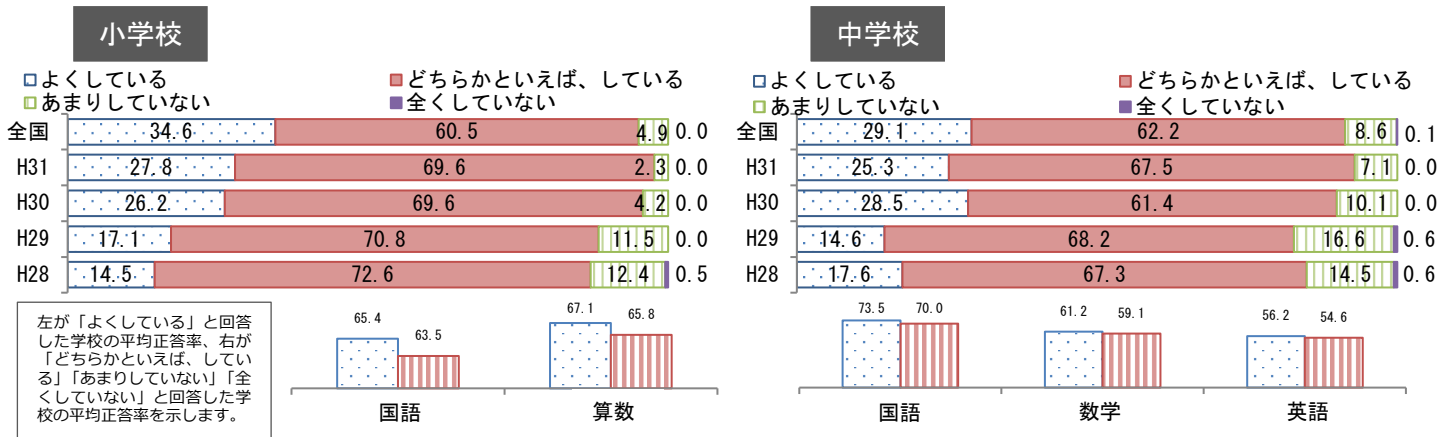
## カリキュラム・マネジメントに関する状況

カリキュラム・マネジメントの「三つの側面」を踏まえ、学校の全体的なあり方を改善していくことが重要です。

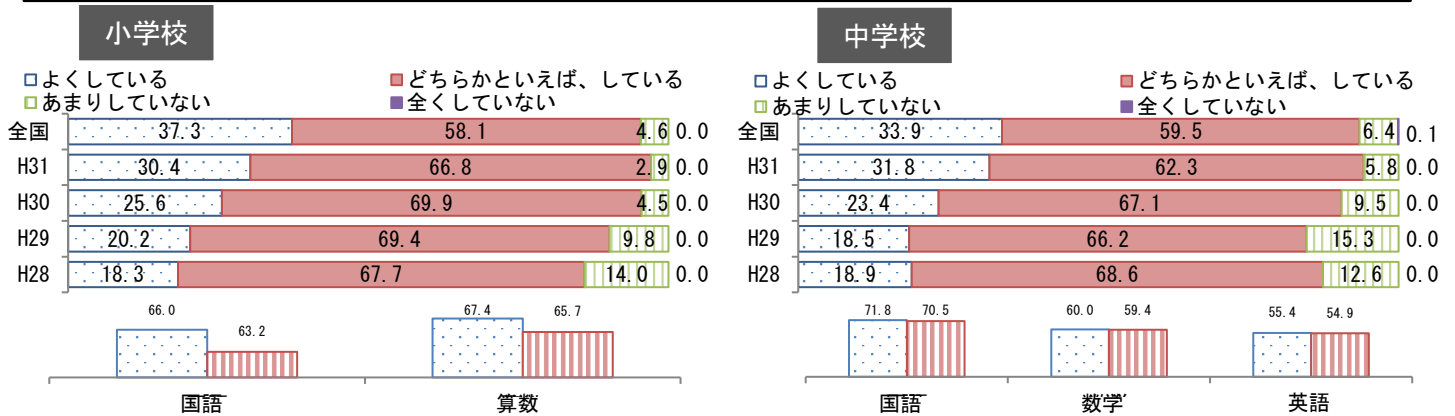
「指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか」との質問に「よくしている」と回答した割合は、小学校では昨年度より増加していますが、中学校では減少し、小中学校とも全国平均を下回っています。

「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」との質問に「よくしている」と回答した小中学校の割合が、昨年度に比べて小学校で4.8ポイント、中学校で8.4ポイント増加しています。また、組織的に学校全体で取り組んでいる学校の方が、平均正答率が高い傾向にあります。カリキュラム・マネジメントの「三つの側面」を踏まえ、教育活動や組織運営等の学校の全体的なあり方を改善していくことが重要です。

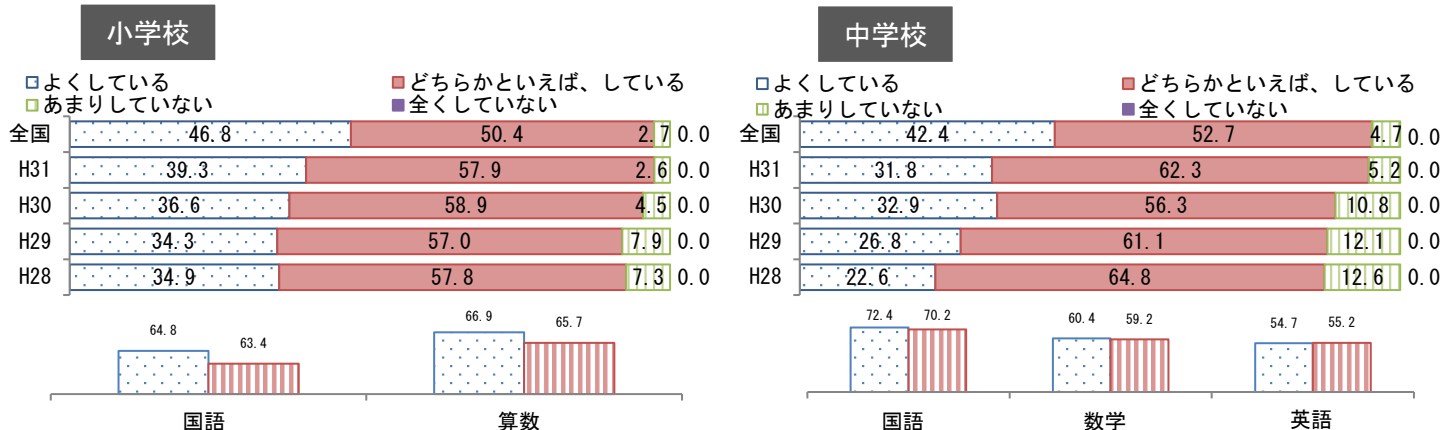
【学校質問紙】 (15) 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。



【学校質問紙】 (17) 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



【学校質問紙】 (19) 言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。



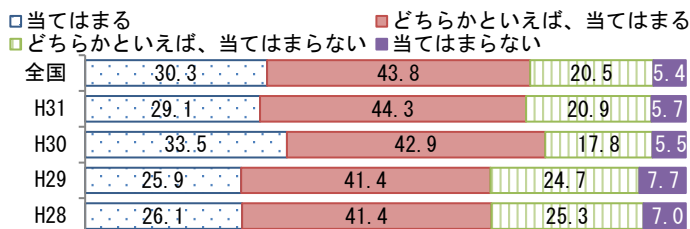
「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に肯定的に回答した小中学生は7割を超えており、このように回答した小中学生の平均正答率は、全教科で全国平均を上回っています。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」との質問に「当てはまる」と回答した小中学生の割合が、昨年度に比べて小学校で5.1ポイント、中学校で3.9ポイント増加しています。また、この質問に対して「当てはまる」と回答している小中学生と「当てはまらない」と回答している小中学生の平均正答率を比べると、国語、算数・数学については20ポイント以上の差があります。

学校に対する「授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」等の質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は8割を超えており、新学習指導要領を踏まえた授業改善が図られていることが伺えます。

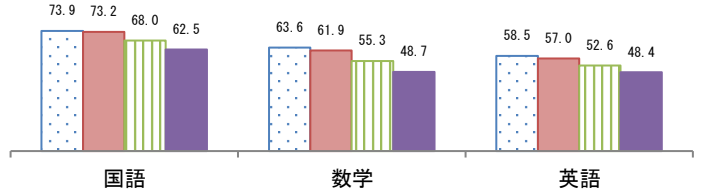
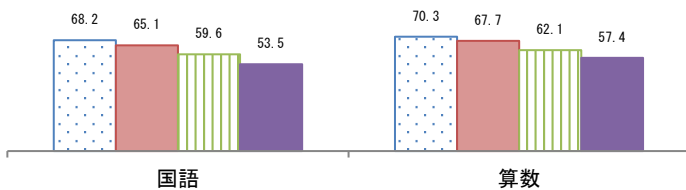
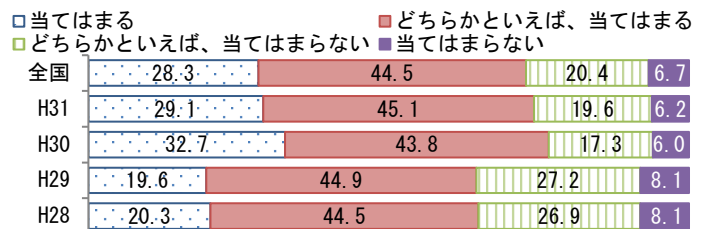
学びの過程では、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、他者と協議しながら試行錯誤を重ね、自らの考えを広げ深めるなどのプロセスが大切です。

【児童生徒質問紙】（29・32）学級の友達との間で【生徒の間で】話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

小学生

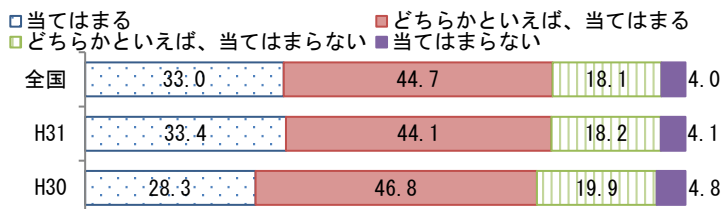


中学生

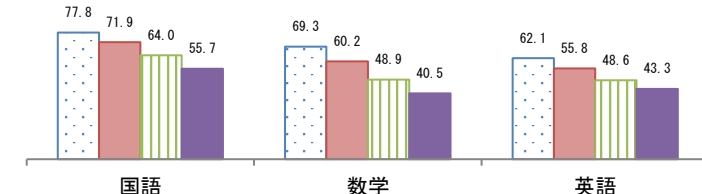
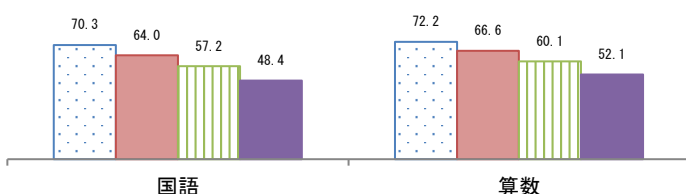
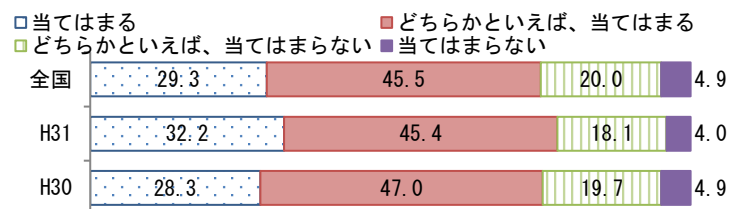


【児童生徒質問紙】（35・37）5年生まで【1、2年生のとき】に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

小学生



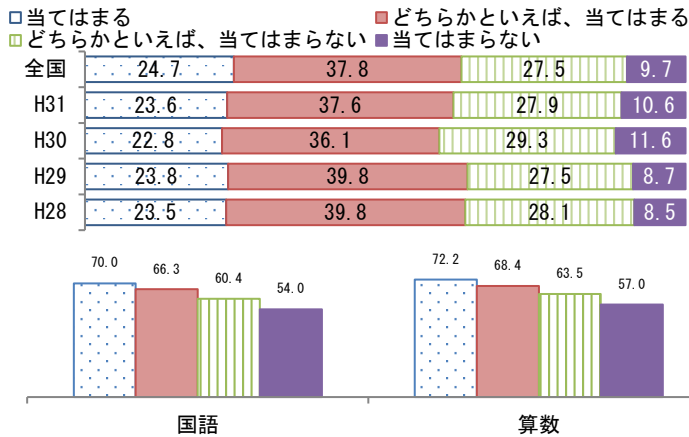
中学生



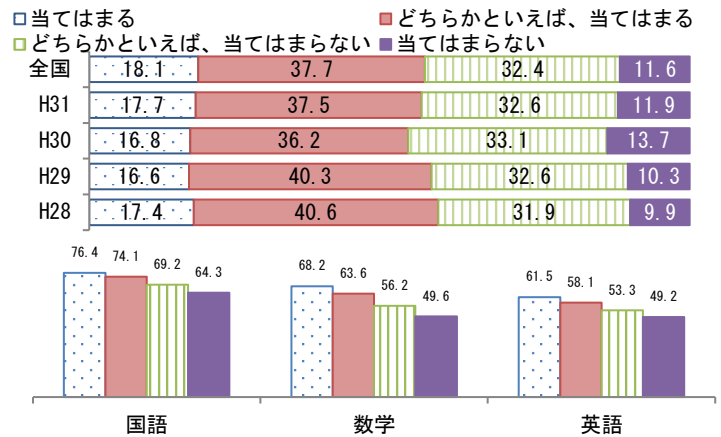


【児童生徒質問紙】（36・38）5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

小学生

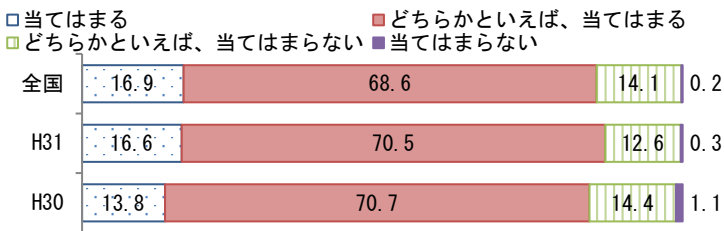


中学生

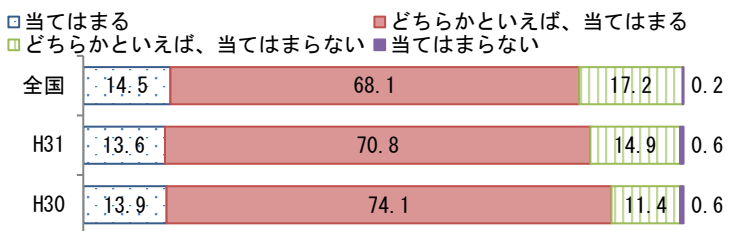


【学校質問紙】（32・33）調査対象学年の児童生徒は、授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。

小学校

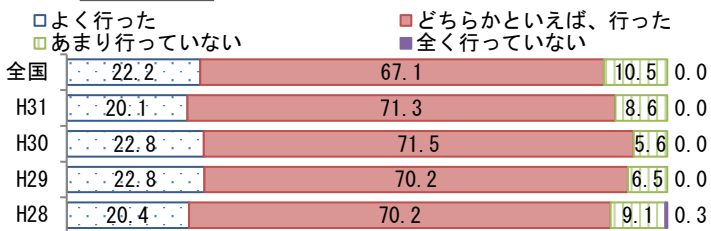


中学校

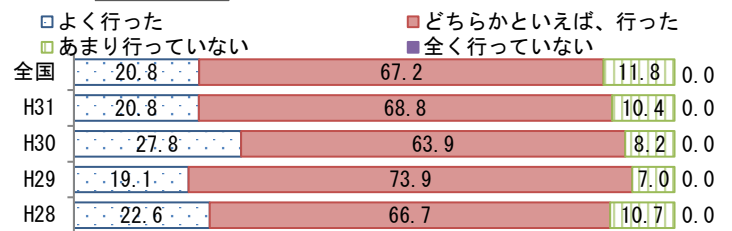


【学校質問紙】（37）調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

小学校

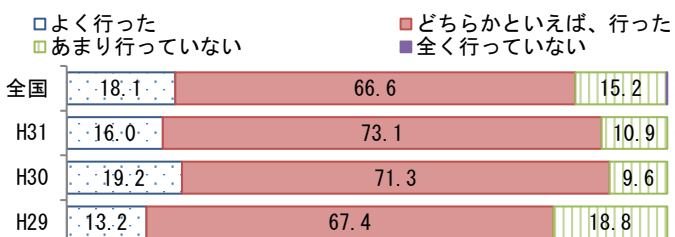


中学校

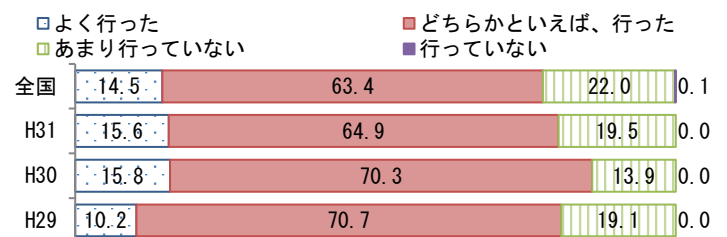


【学校質問紙】（38）調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。

小学校



中学校



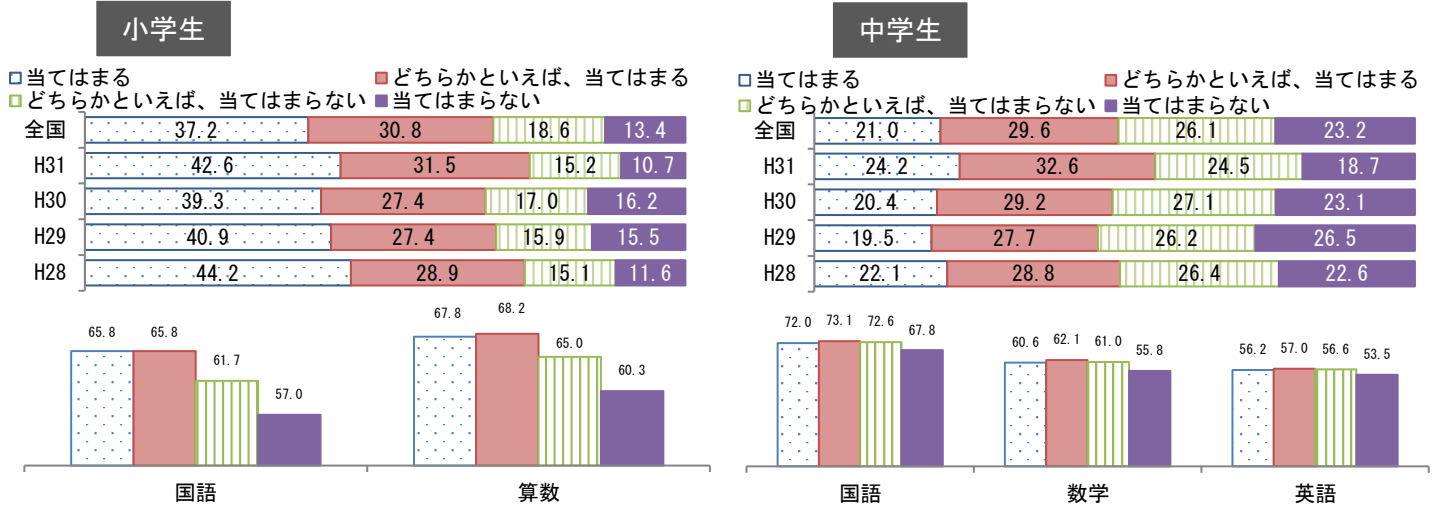
## 地域との関わりに関する状況

子どもたちがより主体的に問題意識をもって地域に関わっていけるよう、学校での学びが社会とつながっていることを意識した授業づくりをしていくことが大切です。

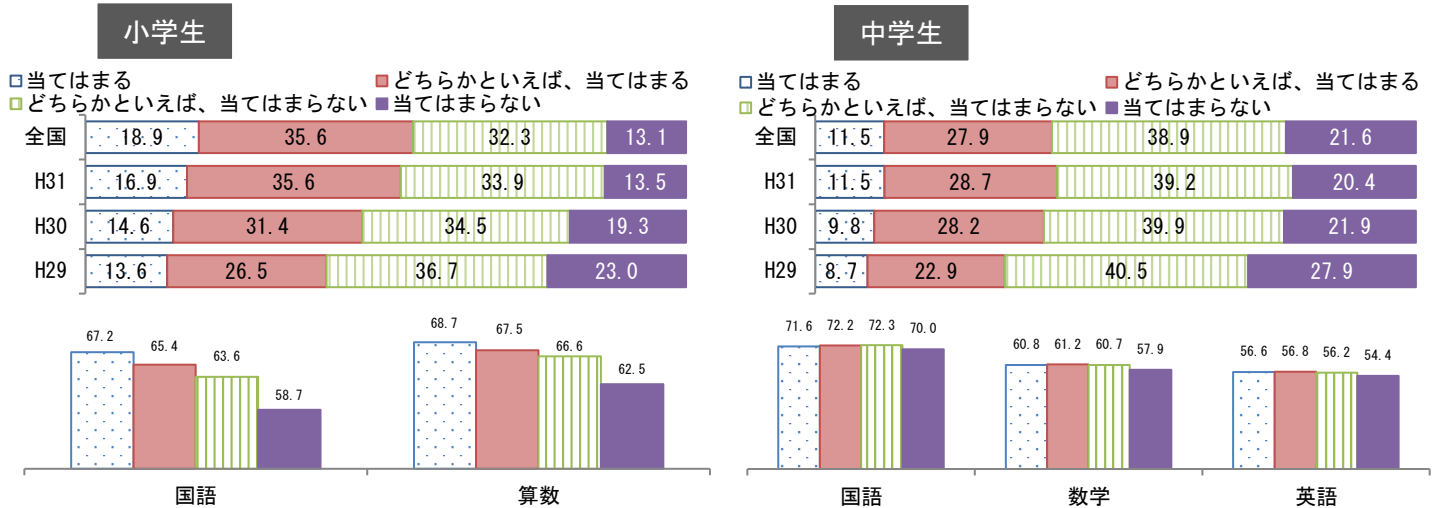
「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」との質問に対し、肯定的に回答した小中学生の割合は、昨年度より小学校で7.4ポイント、中学校で7.2ポイント増加し、小中学校ともに全国平均を6ポイント以上上回っています。しかし「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」との質問に対しては、肯定的に回答した小中学生の割合は増加傾向にあるものの、小学生は全国平均を下回る状況が続いています。

子どもたちがより主体的に問題意識をもって地域に関わっていけるよう、学校での学びが社会とつながっていることを意識した授業づくりをしていくことが大切です。

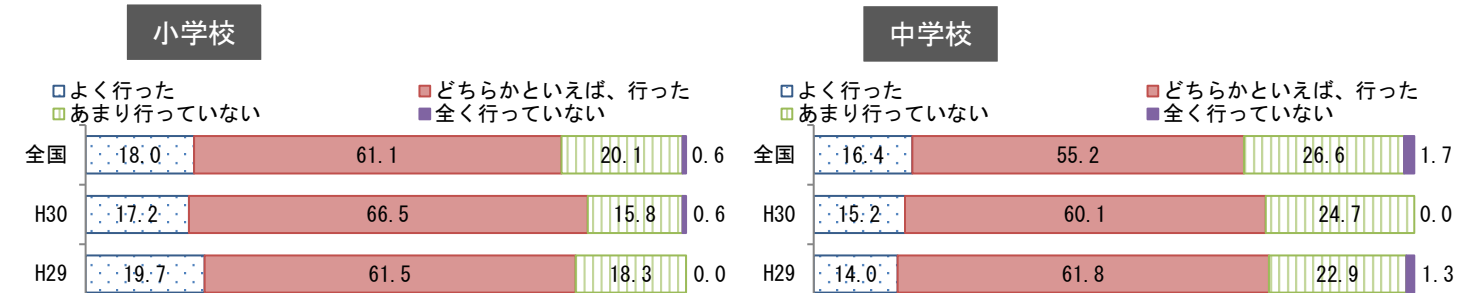
### 【児童生徒質問紙】 (23) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



### 【児童生徒質問紙】 (24) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



【参考】【学校質問紙】 (H30) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか。



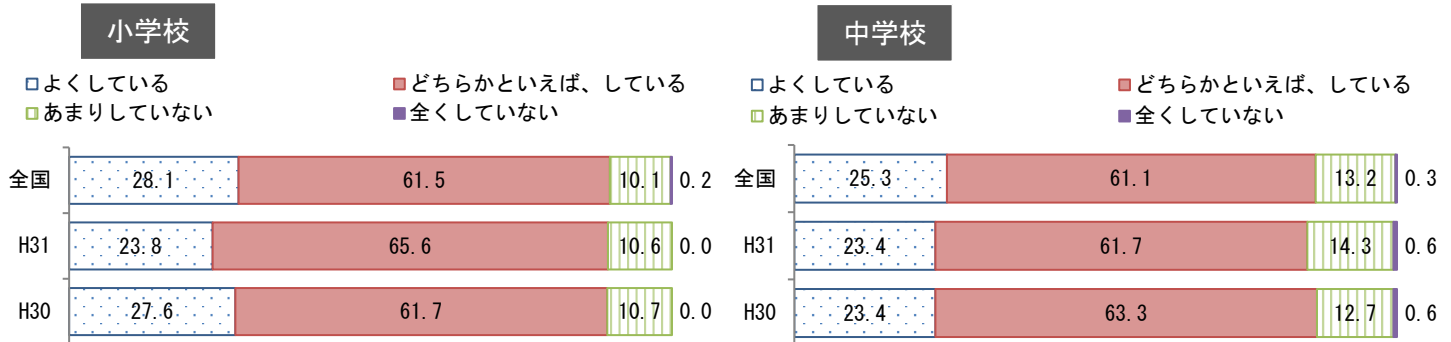
## 地域や社会と学校の連携・協働に関する状況

家庭・地域と目標やビジョンを共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を進めていくことが大切です。

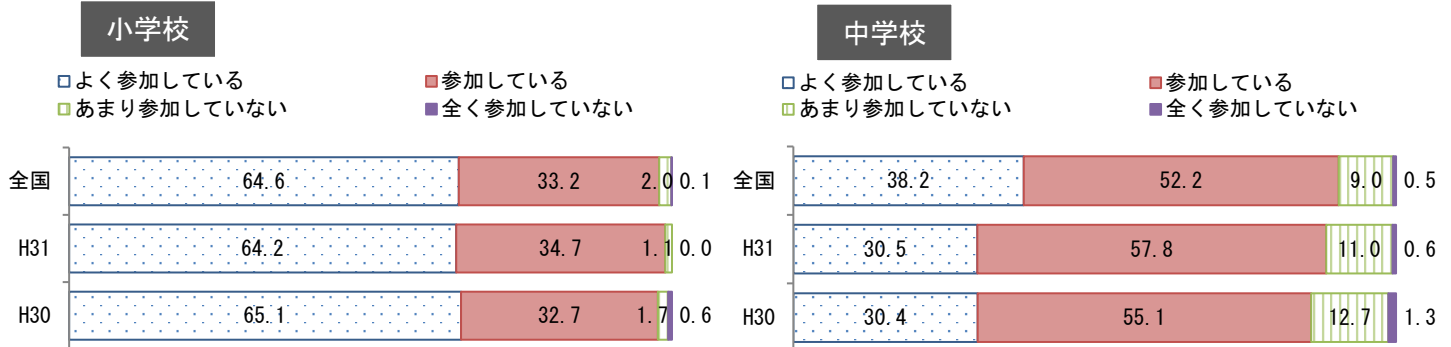
「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」との質問に対し、肯定的に回答した小中学校の割合は、小中学校で8割を超えています。また、「保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか」「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(56・70)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は、小中学校でそれぞれ8割、6割を超えており、昨年度より増加しています。

今後も、学校が家庭・地域と目標やビジョンを共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を進めていくことが大切です。

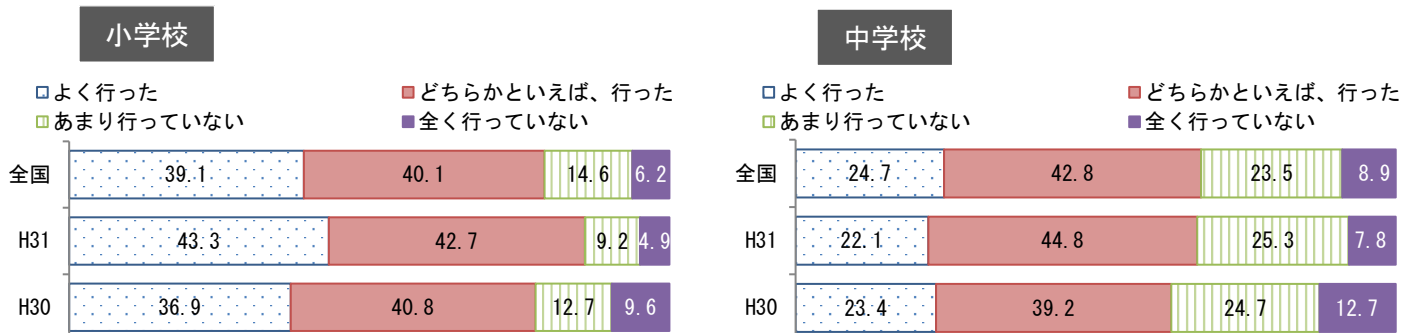
【学校質問紙】(55・69) 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。



【学校質問紙】(56・70) 保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか。



【学校質問紙】(57・71) 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(56・70)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。



## 第3章 県内の取組（学校等の取組事例）

### 川越町立川越南小学校

### 学習内容の理解と定着に向けた取組

川越南小学校では、学習内容の理解と定着に向けて、教職員全体で取組を行っています。「やりっぱなし」ではなく、定着状況を把握して「できなかったことをできる」ようにするため、様々な場面できめ細かくフォローすることを大切にしています。

#### 取組① 「やりっぱなし」にせず、フォローの時間を大切にする

##### （1）朝の学習や補充学習での取組

- 朝の学習では、学年で実施内容を統一して読書（月曜日）と漢字や計算のプリント（火～金曜日）に取り組んでいます。朝の学習プリントについては、その日のうちに採点をして子どもに返却し、できなかった問題ができるようになるよう指導しています。休み時間には、担任が個々に補充学習に取り組んだり、授業が終わってから分からない子どもへの支援をしたりしています。

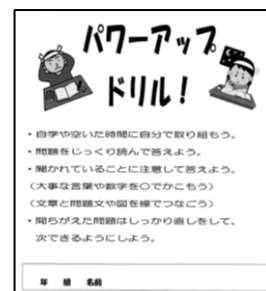
##### （2）年度末での定着状況の確認と理解の定着

- 1月の終わりに全学年で民間の学力検査を実施し、定着状況の確認をしています。できなかった問題ができるようになるよう、返却の際に解説の時間を設けたり、できなかった問題への再チャレンジを行ったりしています。年度内に子どもたちの学習内容の定着を図り、次の学年へ送るようにしています。

#### 取組② 個人のペースに合わせて行うプリント学習の取組

##### （1）パワーアップドリル！の取組

- 学-Viva!!セットや「わかる・できる育成カリキュラム」から、記述問題や苦手な分野のプリントを集め1冊にした「パワーアップドリル！」を子どもたちに渡しています。一冊50枚ほどのプリントで構成されています。「パワーアップドリル！」はいつも机の引き出しの中に入れてあり、期限までに提出できるよう、テストや課題が早く終わったときなどに子どもたちが自分のペースで進めています。プリントの裏に解答や解説が書いてあるので、自分で取り組むことができます。



#### 取組③ 全国学力・学習状況調査の結果を、学校／学級別解答状況整理表（S-P表）を用いて分析

##### （1）S-P表を用いた分析を実施し、個々の課題を把握する

- S-P表を見ながら実際の調査問題と照らし合わせ、誤答の状況から「Aさんは、ここまではできていたんや」「あと、この条件が書いたら正答やったんやな」など、具体的な子どもの姿を思い浮かべながら、教職員全体で子どものつまずきを把握するようにしています。数値だけでは分からない子どもの解答状況を見ながら、分析したことを組織的な取組につなげています。



S-P表の見方はこちら！

##### （2）子どものつまずきから、組織的な取組へ

- 全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果から、国語の力、特に「主語と述語の関係をとらえること」に課題が見られることが分かってきました。そこで、2学期から、「主語と述語の関係をとらえること」など、基礎基本の内容について低学年の段階から系統立てて朝の学習や家庭学習に取り入れています。

#### 成果 子どもたちは、「先生は、分かるまで教えてくれる」と感じています！

平成30年度第1回みえスタディ・チェック小5国語において、「きかい」の問題の正答率が大きく改善するなど、子どもたちの課題に対応したきめ細かな取組により基礎基本の定着が図られています。また、児童質問紙「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」について、全国に比べ約5ポイント上回っています。「子ども一人ひとりの学びに寄り添ったきめ細かな指導を進めてきたこと」によるものと考えています。

潮南中学校では、学習内容の理解と定着を図るため、校長のリーダーシップのもと、みえスタディ・チェックや学-Viva!!セットを計画的に活用した取組を全学年、全クラスで行っています。

#### 取組 ① 全国学調、みえスタディ・チェック、学-Viva!!セットを全校体制で計画的に活用

##### (1) 全国学調、みえスタディ・チェックの再活用を年間計画に位置付ける

全国学調、第1回みえスタディ・チェックのつまずきの多かった問題について、自校採点后、授業で振り返るとともに、夏休みの補充学習、2学期（9月、10月後半）に全校体制で計画的に再活用を行っています。何度も繰り返すことにより、子どもたちの学習内容の理解と定着につなげています。

##### (2) 学-Viva!!セット活用期間を設定

学-Viva!!セットの発行月（6月、11月、2月）に合わせて、学-Viva!!セット活用期間を設けています。学-Viva!!セットを印刷して2・3年生全員に配付し、宿題等で取り組んでいます。

#### 取組 ② 全校数学学習タイム（期間）の実施

##### (1) 全校数学学習タイムの実施

10月から毎週木曜日の朝の学習時間を数学学習タイムとし、全クラスが数学のプリント学習を実施しています。全国学調やみえスタディ・チェックで課題が見られた内容に関わる学-Viva!!セットや、県作成のワークシートを活用し取り組んでいます。

##### (2) 全校授業公開期間の設定

各学期に1回、2週間程度、教員がお互いの授業を参観する期間を設定しています。参観後、お互いにフィードバックを行い、授業の質の向上につなげています。

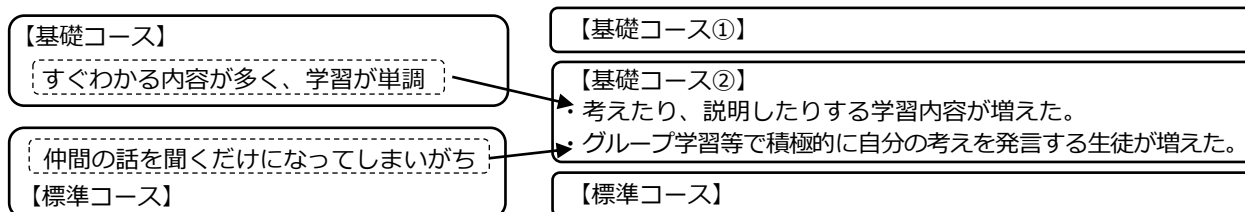
#### 取組 ③ 子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導

##### (1) みえスタディ・チェックにおけるS-P表の活用

みえスタディ・チェックにおいて、学校独自でS-P表を作成し、個々の生徒のつまずきを分析し、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導につなげています。

##### (2) 子どもたち一人ひとりの状況に応じた習熟度別クラス編成

「わかる授業」確かな実践事業を活用し、全学年で数学の習熟度別指導を行っています。数学科の教員が、月1回教科会をもち、進度や授業方法の確認などを行っています。これまではA、B各クラスを2コースにして習熟度別指導を行っていましたが、S-P表の分析をもとに、1クラスを3コースにして習熟度別指導に取り組んだことにより、個々の生徒の状況に応じた授業が展開でき、生徒の意欲の向上や達成感につながっています。



#### 取組 ④ 中学校区で取り組む

##### (1) S-P表の共有

第1学年のみえスタディ・チェックのS-P表を潮南中学校区の小学校と共有しました。小学校のときの子どもたちの学習状況を把握するとともに、授業実践の仕方、授業の様子などを聞きとりながら、中学校での学習をどのように進めていくか研修しました。

##### (2) 中学校区学力向上委員会

紀北町が各中学校区で行っている学力向上委員会を、潮南中学校区でも年3回行っています。第1回（6月）は、みえスタディ・チェックの結果の交流と中1の授業参観、第2回（9月）は、全国学調の結果の共有をしました。第3回（2月）は、割合の指導について、小中学校で一貫した指導ができるように、研修する予定です。

#### 成果 「授業の内容がよくわかる」が大幅アップ!

全国学調の生徒質問紙の「数学の授業の内容はよく分かる」や、年2回行っている学校独自の生活アンケートの「コース別の授業について、数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して9割以上の生徒が肯定的な回答をしています。これからも、全校体制で学習内容の理解と定着につながる取組を進め、できなかったことができるようになることを目指していきます。

松阪市では、小学校と中学校が連携して学力の基盤づくりに取り組んでいます。中部中学校区では、15歳の時にどのような子どもに成長してほしいかゴールを共有し、共通した「家庭学習の手引き」、「学びの基本（学習の手引き）」、「教えるの基本（授業の手引き）」を作成しています。教師で共通理解を図り、子どもたちに指導しています。

**取組 家庭学習を日常の授業と連動させる**

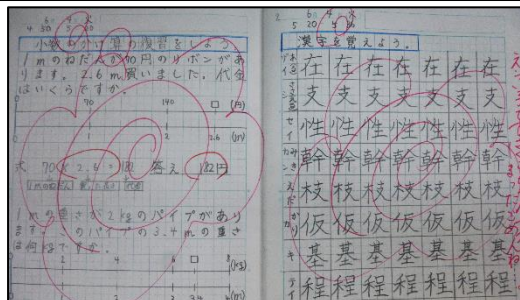
**(1) 授業、家庭学習のやり方を全学年（中学校区）で統一する**

学年が変わっても同じやり方で授業、家庭学習を行うことで、年度初めの基盤づくりをスムーズに行え、4月当初から子どもも教師も学習に集中することができます。

- ・家庭学習の一つとして自主学習に取り組んでいます。1～3年生は夏休みや土日に、4年生以上は毎日取り組みます。
- ・学年に合わせた「自主学習のやり方」を作成して取り組んでいます。

《自主学習のやり方・5年生》※一部抜粋

- ★日付、開始時刻、スタートからの通し番号を書く。
- ★自学メニューの中からやることを選ぶ。
- ★Aメニューの算数は、毎日必ず行う。
- ★空いているところがないように書く。
- ★めあてとふり返りを書く。
- ★フートは見開き2ページ以上。



Aメニュー（算数）

答え合わせとまちがい直しまでやって完成！

計算ドリル、教科書の問題を解く、教科書の「算数自習コーナー」の問題を解く、授業で一度間違えた問題をもう一度解く、テストのまちがい直し、算数の文章問題づくり など

Bメニュー（国語、社会、理科など）

- 授業で習ったこと、わからなかったところの復習
- 漢字練習、ミニ日記、おすすめの本紹介  
新しく習った言葉や表現で文を作る
- 日本の山、川、湖、平野、盆地、などを調べる  
新聞の記事を切り抜いて感想を書く
- 実験や観察でわかったことのまとめ  
身近な生き物や植物・自然の様子を観察してまとめる など

- ・しっかり取り組めている子どものノートはコピーして学級で配り、書いた子どもが授業で学習内容を発表するなどして、全員で共有します。
- ・自主的に取り組みにくい子どもにはプリントを用意して貼らせるなど、すべての子どもが取り組めるよう支援します。

**(2) 家庭学習で予習・復習できるよう、授業で取り上げる問題を工夫する**

- ・授業で一度学習しただけでは定着が難しいため、家庭学習を工夫して繰り返し学習できるようにしています。

例えば… ①ある日の授業

①計算ドリル④に相当する学習内容 + 計算ドリル③

②その日の家庭学習

②計算ドリル④をやる・その日の学習内容の復習になる

③次の授業

計算ドリル⑤に相当する学習内容 + ③計算ドリル④

計算ドリル④の学習内容を3回できる！

- ・計算ドリルは、授業で学習した当日ではなく翌日以降の授業の中で取り上げて全員で学習します。そのことにより、自主学習②は①の復習になるだけでなく、次の授業の③に対する予習としても取り組むことができます。
- ・授業でわからなかったところは、一人で復習してもわからないままのことがあります。「わからない」が積み重ならないよう、翌日以降の授業でもう一度学習する機会を作っています。

**(3) 家庭学習を授業者の振り返りに活用する**

- ・Bメニューでは、授業でわからなかったところを振り返るように指導しています。そうすることによって、子ども自身がわかる・できるようになるだけでなく、子どもたちがどんなことにつまずいているのか教師が把握することができ、次の授業の指導に生かされます。

**成果 子どもたちが、自信をもって授業に臨めるようになっていきます**

予習をすることで、苦手な子どもも自信をもって授業に臨めるようになっていきます。また、繰り返し学習することで学習内容の定着が図られています。特に、算数の基礎的な知識・技能が定着し、全国学調の「知識」に関する問題のほとんどで正答率が全国を上回りました。

橋南中学校では、平成 28 年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査を分析する中で、家庭学習の時間の短さが深刻な課題であること、子どもたちが社会に出たときに必要な基礎的な学力が重要であることから、平成 29 年度から「橋南スタディタイム」を設け、家庭学習の定着に取り組んでいます。

### 取組 子どもたちの意欲を喚起させる「橋南スタディタイム」

#### (1) 学校・家庭が連携して、子どもたちが学ぶ「しかけ」をつくっています

子どもたちが意欲的に家庭学習に取り組むことができるように、平成 29 年度から「橋南スタディタイム」(午後 9 時～10 時)を設けています。「橋南スタディタイム」の間は、テレビや携帯電話・スマートフォンの使用をやめて家庭学習に取り組む時間としています。

#### <子どもへの働きかけ>

##### ① 「KYONAN Study Note」の作成

平成 30 年度に学校独自で「KYONAN Study Note」を作成し、家庭での自主学習に取り組めるようにしました。教員が丁寧にスタディノートを見てコメントを書いたり、声かけを行ったりすることで、子どもたちの達成感や自己肯定感を高め、さらなる学びへとつなげています。

##### ② 「自主学習マニュアル」の活用

何をどのように勉強していいかわからない子どもたちのために、令和元年度には、「自主学習マニュアル」や自主学習マニュアル啓発用のクリアファイルを作成し、教科ごとの自主学習の取組のヒントを示しています。

#### <保護者への働きかけ>

入学説明会で保護者に家庭学習の大切さとともに、「橋南スタディタイム」について学校だより等の文書を使って周知を図っており、保護者の認知率は 96%となっています。また、「橋南スタディタイム」について、子どもへの声かけや励まし、テレビを消すなど、ノーマディアの環境づくりに向けて家庭の協力を促しています。

#### (2) 学校全体で家庭学習の充実に取り組んでいます

##### ① 学校全体で「橋南スタディタイム」に取り組むために

第 1 回の職員会議で新しく異動してきた教職員に「橋南スタディタイム」について説明を行い、4 月から全ての教員が趣旨や取組内容等を共有して取り組めるようにしています。

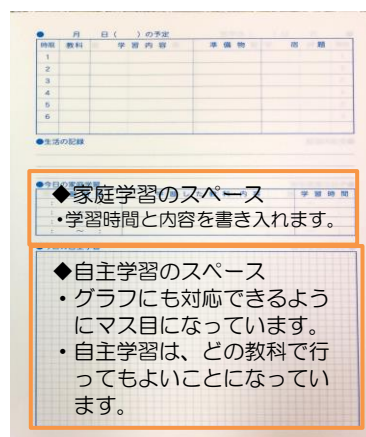
##### ② 見通しを立てた家庭学習の促進

シラバスに家庭学習の内容を明記するとともに、宿題と関連付けたり、自主学習スペースに貼れる大きさのミニプリントを用意したりするなどして、子どもたちが自主的に家庭学習に取り組めるようにしています。

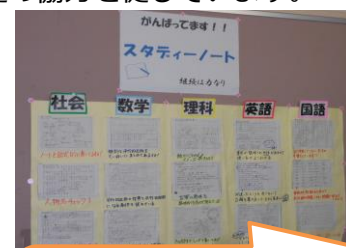
さらに、研修担当が中心となり、「橋南スタディタイム」の取組状況と定期テストとの関係等を分析しています。

#### (3) 小中連携による子どもたちの学力向上への取組

平成 29 年度から、橋南中学校区小中一貫教育推進協議会学力向上部会で、家庭学習の取組について交流を行い、各学校の取組を共有しています。このことをとおして、小学校から中学校への円滑な移行へとつなげています。



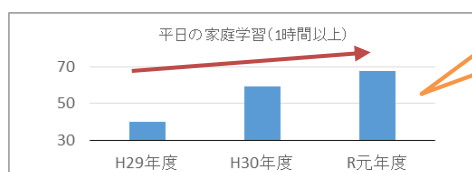
「KYONAN Study Note」



掲示スペースに教員のコメント付きでスタディノートを掲示することで、子どもたちの学習意欲の向上にもつながっています。

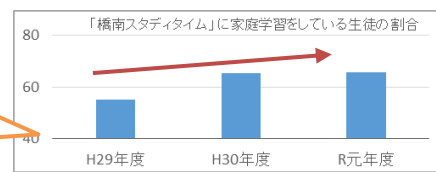
### 成果 計画的に家庭学習に取り組む生徒の割合が増加しています

子どもたちの「KYONAN Study Note」への愛着とともに、提出率も高くなってきています。また今年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査結果では、「家で自分で計画を立てて勉強している」と肯定的に回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回りました。「橋南スタディタイム」をとおして、子どもたちはどのように勉強すればよいか身に付いてきています。今後は、さらに主体的な学びにつながるように学校全体で取組を進めていきます。



平日の家庭学習(1時間以上)の割合が年々増加しています。

「橋南スタディタイム」を活用して家庭学習に取り組んでいる生徒が増えています。



本校では、基礎基本の学習内容の定着に課題があることから、朝の10分間を中心に補充的な学習に取り組む「スキルタイム」を実施しています。その取組等により一定の成果が見られたものの、全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、民間の学力検査などの分析から、「図形」「算数における記述式問題」に課題があることが分かってきました。

平成28年度から、4年生以上の算数で習熟度別少人数指導を取り入れ、子どもたちの習熟の状況に応じた指導について、研究を進めています。

### 取組① 習熟の違いに応じた「子どもが説明する方法」の工夫

習熟の違いに応じて「じっくりコース」(基礎)「てくてくコース」(標準)「どんどんコース」(発展)の3つのコースを設定しています。全コースで「説明する機会」を設け、どの子ども学習の中で書いたり話したりする活動を取り入れています。

#### (1) 習熟の違いに応じた「子どもが説明する方法」の工夫

単元の特性や習熟の違いに応じて、例えば「じっくりコース」では□に言葉を入れて説明する文章を作ったり、「てくてくコース」では算数用語をつなげて説明したり、「どんどんコース」では友だちの考えを説明したりするなど、子どもが説明する方法を工夫しています。

＜説明する方法の工夫(例)＞

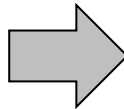
- ・□に言葉を入れてまとめ、他の場合に当てはめて話す(書く)
- ・教科書の文章を使って、言葉をつなげて話す(書く)
- ・友だちの考えや説明の続きを話す(書く)

#### (2) 習熟の違いに応じたためあての提示

説明する力を高めるために、コース別に目指す姿を設定し、その姿を意識したためあてを提示しています。

＜コース別の目指す姿＞

- ・じっくりコース(基礎)  
「キーワードを使って短い文を書く」
- ・てくてくコース(標準)  
「友だちの考えを自分の言葉で書く」
- ・どんどんコース(発展)  
「ペアやグループで伝える」



＜コース別のためあての提示(例)＞

三角形をかく活動  
じっくり「三角形のかき方を言葉にしよう」  
てくてく「三角形のかき方を文で表そう」  
どんどん「三角形のかき方を伝えよう」

#### (3) 「わかったつもり」から「わかった」へと理解を深めるペアやグループでの学習活動の工夫

各コースにおいて、ペアやグループでの学習活動を行っています。理解できた内容をペアの友だちに説明したり、グループの友だち同士が説明し合いながら文章にしたりして、理解した内容を確かなものにします。自分の考えが友だちにうまく伝わらないことから、学習内容が自分ではわかったつもりだったが、確実にわかっていなかったことに気付き、相手がわかるように説明することにより「わかったつもり」から「わかった」へと子どもたちの理解が深まっています。

### 取組② 考えを「図に表して」「大きく見せて」「動かして」説明する

問題を解く学習場面では、答えを求めるだけにとどまらず、「式や考えを説明する」ことを意識づけています。考えを図を使って説明できるように、4年生から数直線図を使って考えをかく指導しています。また、習熟の違いに応じてテープ図等も活用して指導しています。

図形の学習場面では、習熟の違いに応じて、書画カメラや画用紙を使って図形を実際に動かす・指し示めすなどを行わせながら説明させています。

説明する学習場面では、「○○さんの言いたいことは△△ってことだね」と聞いた内容を確認しながら、友だちの説明と自分のイメージをつなげながら聞くことを意識させています。

### 成果 全コースに説明する機会を取り入れることで、学習内容を整理して理解できた

上記のような取組を行う中で、自分の言葉で説明することを積み重ねることにより、子どもたちは最初うまく説明できず戸惑うことも多かったのが、少しずつ自分の言葉で表現しようとする態度が身に付いてきました。言葉だけで説明がうまくできないときは、図や絵、具体物などを使って相手にわかりやすく説明するようになってきています。

また「スキルタイム」において、学-Viva!!セットや本校独自のワークシート等を活用し、文章を書く力を育成する取組を進めてきたことも、自分の言葉で説明する力につながっています。

これまでの習熟の違いに応じた授業実践等を校内で共有し、指導の工夫に取り組んできたことが、成果として表れてきました。



亀山市では「亀山市学力向上推進計画」のもと、子ども一人ひとりの「確かな学力」の向上を目指した取組を進めています。全国学力・学習状況調査の結果から、長文で感想や説明文を書くことに課題が見られたため、「書く」活動を軸にして、課題の改善を図っています。

**取組① 授業における「振り返る活動」の充実**

**(1) 全教科の授業で「振り返る活動」の時間を確保し、書く活動を充実する**

全ての授業で、学習した内容を文章化して振り返ることで、学習内容の理解・定着を図るとともに、自分の学びの成果や変容を自覚し、自己肯定感を高めることができると考えています。

「振り返る活動」を充実するため、学校や子どもの状況に応じた方策や手立てを講じ、次のように段階的に取り組んでいます。

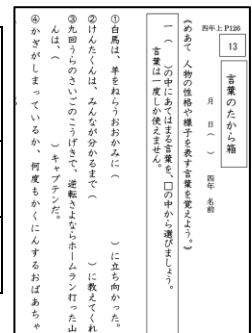
<b>STEP1</b>	<b>授業の最後に、5分程度の「振り返る活動」の時間を確保する。</b>
<b>STEP2</b>	<b>5行以上の文章を書くことができるようにする。</b> <振り返りを書かせる際の留意事項> ・本時のめあてに対応させる。 ・「何を学んだか」、「学び方は分かったか」、「どのように考えが変わったか」について書かせる。 ・「次にどのようなことを学びたいか」について書かせ、家庭学習につなげる。
<b>STEP3</b>	<b>子どもたちが書いた振り返りから、次のような姿が見られるようにする。</b> ・自分の考えや主張を、理由や根拠をもとに記述している。 ・自分の考えを整理したり、学習理解を深めたりしている。 ・自分の学びの成果を自覚し、自己肯定感を高めている。

**取組② 国語科スキル学習の実施**

**(1) プリント教材を活用したスキル学習**

・小学校第3学年、第4学年においては朝の短時間学習時に、亀山市教育委員会が作成した教科書の内容に応じた言語事項のプリントに取り組み、計画的に国語科スキルを身に付けることができるようにしています。また、三重県教育委員会作成の学-Viva!!セット(ワークシート)も併せて活用し、学校・子どもの状況に応じて、次の内容で取組を進めています。

<b>STEP1</b>	・ひらがな、かたかな、漢字 ・視写、聴写(集中力、筆圧・運筆、表記ルール、メモ力など) ・クロスワードパズル(語彙力)
<b>STEP2</b>	・国文法(主述関係、助詞、接続詞など) ・言語文化(ことわざ・熟語・故事成語など)
<b>STEP3</b>	・読解(活用問題を用いた文章の構造と内容の把握) ・文章構成(作文、ミニ論文など)



言語事項のプリント

**(2) 学校図書館活用アドバイザーと連携したスキル学習**

・学校図書館活用アドバイザー(司書免許を取得している退職教職員)が定期的に読書感想文の指導や新聞記事・コラムを活用した新聞作成の指導、百科事典を活用した調べ学習の指導を行い、読解力・情報収集力・構築力・表現力・思考力を高めることができるようにしています。

**取組③ 定期的な教員アンケートによる取組の定着**

「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組の進捗状況について、学期毎に市内小中学校の全ての教員にアンケートを行うことによって把握しています。このアンケートによって、教員一人ひとりの取組への意識が高まり、授業での「振り返る活動」が充実してきています。また、アンケート結果を校長会や研修担当者会でフィードバックすることによって、それぞれの学校が状況に応じた改善を進めることができるようにしています。

**成果 小中学校でめあてと振り返りを基本とした学習スタイルが浸透しています。**

「振り返る活動」の時間を確保することで、子どもが自分の考えや学んだことを文章にできるようになってきたことが教員アンケート結果の推移から明らかになっています。また、振り返りと正対しためあての提示がなされるようになり、小中学校でめあてと振り返りを基本とした学習スタイルが浸透してきました。

亀山市では市内全小学校での外国語活動(第3・4学年)及び外国語科(第5・6学年)先行実施をより充実したものにすることをねらいとし、1中学校、3小学校をモデル校に指定し、指導者の英語力と指導力向上のための研修会を通して英語指導法の研究・開発を行ってきました。

**取組① モデル校を中心とした小中連携**

小中学校の外国語教育の円滑な接続を目指し、各中学校の英語教育担当者が小学校での外国語活動や外国語科の取組を実際に見たり聞いたりする場を確保し、外国語活動や外国語科の内容に取り組んだ児童の中学校進学時を想定した中学校での指導方法について研究を行いました。

**(1) CAN-DOリストを活用した系統的な外国語教育**

- ・モデル校の英語教育担当者や英語科研究協力員の協力を得て、小中の接続を見通したCAN-DOリストを作成し、市内全小中学校に周知しました。
- ・小学校では指導内容の確認を行い、中学校では小学校での指導内容を踏まえた授業づくりにCAN-DOリストを役立てています。
- ・中学校の英語の授業でも、小学校の補助教材「We Can!」のChantsを使ったウォーミングアップなどを取り入れ、小学校での取組を踏まえた授業づくりを実施しています。

目標	場 所	要 素	備 考
① はっきりと日本語を話し、日本語の発音について、必要事項を説明することができる。 ② はっきりと日本語を話し、日本語の発音について、必要事項を説明することができる。 ③ はっきりと日本語を話し、日本語の発音について、必要事項を説明することができる。	① 国語科 ② 外国語科 ③ 外国語科	① 国語科 ② 外国語科 ③ 外国語科	① 国語科 ② 外国語科 ③ 外国語科
① はっきりと日本語を話し、日本語の発音について、必要事項を説明することができる。 ② はっきりと日本語を話し、日本語の発音について、必要事項を説明することができる。 ③ はっきりと日本語を話し、日本語の発音について、必要事項を説明することができる。	① 国語科 ② 外国語科 ③ 外国語科	① 国語科 ② 外国語科 ③ 外国語科	① 国語科 ② 外国語科 ③ 外国語科

**(2) 小中学校間における参観、情報交換の場の確保**

- ・モデル校間の外国語活動・外国語科における授業公開を市内全小中学校にも公開することにより、小学校の教員は中学校の教員の専門的な知識や技能を学び、中学校の教員は小学校の「聞く」「話す」を多く取り入れている授業展開の工夫について学んでいます。

**取組② 小学校における外国語教材「We Can!」「Let's Try!」を活用した指導法の研究・開発**

「Let's Try!」を活用した「聞く」「話す」を中心とした外国語活動における指導法及び、「We Can!」を活用した「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を扱った外国語科における指導法の研究・開発を行いました。

**(1) 短時間学習の活用**

- ・小学校第5学年、第6学年においては週に3回、朝の15分間を短時間学習とし、1単位分の外国語科の内容に取り組んでいます。活動は、導入・活動・振り返りの流れで実践しており、子どもたちにはその授業の流れが定着してきています。
- ・学習内容は、英単語の発音や意味をかるたやフラッシュカードを使ったゲームで学習したり、インタビューしたりするなど、「聞く」「話す」ことを中心にしています。

**(2) ペアワーク、グループワークの活用**

- ・HRT(学級担任)とALT(外国語指導助手)のデモンストレーションを見せた後、子どもたちが役割を分けて交流する活動を行っています。HRTとALTが役割を意識してデモンストレーションを見せることによって、子どもたちがどのようなやり取りをすればよいかを理解することができ、安心感のあるペアワーク、グループワークにつながります。

3年生	使用教材: 新3回 リアクションカードを加え、2往復以上のやり取りをするようにす やりとり例: A/B: Hello. A: Hello. B: I'm ~. A/B: Good bye. See you.	新3回 A/B: Hello. A: How are you? B: I'm happy. A: Me too.
4年生	使用教材: 新4 U3 リアクションカードを加え、2往復以上のやり取りをするようにす やりとり例: A: Do you like (Mondays)? B: Yes, I do. / No, I don't. I like (Mondays). How about you?	新4 U4 B: It's (Monday). It's (8:30) (am/pm). It's (homework time). How about you?
5年生	使用教材: HF1 L2 相手の言った言葉を繰り返し、3往復以上のやり取りをするよう やりとり例: A: Hello. A: How are you? B: I'm happy. A: Me too. B: How about you? A: I'm sleepy.	HF1 L3 A: Hello. A: How many apples? B: Ten (apples). A: That's right. B: How many balls? A: Two balls.
6年生	使用教材: HF2 L1 相手の言った言葉を繰り返し、理由を加えながら3往復以上の やりとり例: A: Hello! A: Do you have ~? B: Yes, I do. / No, I don't.	HF2 L2 A: When is your birthday? B: My birthday is March eighteenth. A: March eighteenth? B: That's right.

**(3) Small Talk の活用**

- ・HRTやALT、英語ボランティア(市教委が募集した英語の学習をサポートできる方)が話す既習内容の表現を使ったやり取りを聞き、それをもとに児童が話す活動につなげていきます。Small Talkの英文は短文ではなく、テーマに沿ったまとまった英文や会話で構成しています。Small Talkに習っていない単語が出てきたときは、聞きなれた言葉をつないで意味を推測させたり、話の前後から内容を考えさせたりする手立てを講じています。「その場」で質問したり答えたりする活動を授業の導入で行うことによって、中学校での「即興」で語ることもつながることができそうです。

**成 果 小中連携による英語指導法の充実**

各モデル校が、市教育委員会の指導・支援のもと、新学習指導要領を見据えた授業実践に取り組むことができました。また、亀山市内の小中学校での授業公開の回数が増えたことにより、モデル校以外の学校も指導の参考にすることができました。今後もCAN-DOリストに基づいた実践を進め、改良を加えながら、小中の連携を意識した外国語教育を進めていきます。

# 第4章 「みえの学力向上県民運動」 主な関連指標

## 短期的・中期的な変化

## 小学校における三重県の割合や全国との差の経年推移

※表中のA・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」を、Bは「変動なし」、Cは「下降」を表す。  
 ※表中の+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」を、-は「下降」を表す。  
 ※表中の○は、上記に示した「A・B・C」及び「+・-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。  
 ※表中の網かけは、当該年度に同じ質問紙項目がなかったものである。  
 ※「短期的な変化」における網かけ部分の表記については、H29→H31の比較を表す。

《児童質問紙》		セカンドステージ 初年度	昨年度	本年度	中期的な 変化	短期的な 変化		
質問紙 番号	質問項目	H28	H29	H30	H28→H31	H30→H31		
①	基本的生活習慣の状況 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の平均値	三重県	89.1	88.6	86.0	89.2		
		全国	88.8	88.8	86.8	89.4	C +	
		全国との差	0.3	-0.2	-0.8	-0.2		
		三重県	95.7	95.4	94.7	95.2	C -	A +
(1) 朝食を毎日食べている		全国	95.5	95.4	94.5	95.3		
		全国との差	0.2	0.0	0.2	-0.1		
		三重県	80.2	79.3	75.1	80.9	C +	A ⊕
		全国	80.1	79.8	77.0	81.4		
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている		全国との差	0.1	-0.5	-1.9	-0.5		
		三重県	91.4	91.1	88.3	91.5	C +	A +
		全国	90.8	91.2	88.8	91.6		
		全国との差	0.6	-0.1	-0.5	-0.1		
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている		三重県	82.7	83.5		84.7	C +	C +
		全国	82.3	83.4		85.1		
		全国との差	0.4	0.1		-0.4		
		三重県	94.9	95.1		95.3	C +	C +
(9) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある		全国	94.4	94.8		95.2		
		全国との差	0.5	0.3		0.1		
		三重県	77.6	78.1		78.7	C +	C +
		全国	76.1	77.4		79.0		
(10) 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する		全国との差	1.5	0.7		-0.3		
		三重県	75.5	77.4	83.4	80.1	C +	C -
		全国	76.3	77.9	84.0	81.2		
		全国との差	-0.8	-0.5	-0.6	-1.1		
(5) 自分には、よいところがあると思う		三重県	83.7	84.4	83.7	82.6	A -	A -
		全国	85.3	85.9	85.1	83.8		
		全国との差	-1.6	-1.5	-1.4	-1.2		
		三重県	24.6	26.6				
④ 削除	平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用状況 「平日のテレビ等の視聴（3時間以上）」「平日のテレビゲーム等の使用（3時間以上）」の平均値	全国	24.4	25.2				
		全国との差	0.2	1.4				
		三重県	32.4	33.7				
		全国	32.8	32.7				
削除	平日のテレビ等の視聴（3時間以上）	全国との差	-0.4	1.0				
		三重県	16.8	19.4				
		全国	16.0	17.6				
		全国との差	0.8	1.8				
⑤ 削除	平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用（3時間以上）	三重県	5.9	7.9				
		全国	5.8	7.0				
		全国との差	0.1	0.9				
		三重県	60.4	61.6	62.7	64.2	A +	A +
⑥ (18) 平日の学習時間（1時間以上）		全国	62.5	64.4	66.2	66.1		
		全国との差	-2.1	-2.8	-3.5	-1.9		
		三重県	49.0	47.9				
		全国	57.0	57.3				
⑦ 削除	休みの日の学習時間（1時間以上）	全国との差	-8.0	-9.4				
		三重県	62.4	61.8	64.4	63.9	C +	B -
		全国	63.5	63.3	66.2	65.7		
		全国との差	-1.1	-1.5	-1.8	-1.8		
⑧ (19) 授業時間以外の読書時間（平日10分以上）		三重県	78.2	77.6	80.0	76.6	A -	C -
		全国	79.2	78.1	80.5	77.4		
		全国との差	-1.0	-0.5	-0.5	-0.8		
		三重県	82.5					
⑨ 削除	家の手伝いをしている	全国	82.8					
		全国との差	-0.3					
		三重県	61.7	62.8	67.6	71.7	A ⊕	A +
		全国	62.2	64.5	67.6	71.5		
(17) 家で、自分で計画を立てて勉強している		全国との差	-0.5	-1.7	0.0	0.2		
		三重県	54.2	51.1				
		全国	55.2	53.8				
		全国との差	-1.0	-2.7				
⑩ 削除	家で、学校の授業の復習をしている	三重県	86.9	87.1		85.5	C -	C -
		全国	86.3	86.3		85.8		
		全国との差	0.6	0.8		-0.3		
		三重県	83.8	87.2	86.4	87.8	A +	A +
(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う		全国	82.6	86.0	85.3	86.1		
		全国との差	1.2	1.2	1.1	1.7		
		三重県	87.8	87.7		94.2	C ⊕	C ⊕
		全国	84.8	85.1		91.7		
(7) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる		全国との差	3.0	2.6		2.5		

質問紙番号	質問項目		H28	H29	H30	H31	H28-H31	H30-H31		
⑩ (23)	地域行事への参加	三重県	73.1	68.3	66.7	74.1	A <sup>+</sup>	A <sup>⊕</sup>		
		全国	67.9	62.6	62.7	68.0				
		全国との差	5.2	5.7	4.0	6.1				
⑪ 削除	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	三重県	71.3	62.0	62.0					
		全国	70.6	63.9	63.8					
		全国との差	0.7	-1.9	-1.8					
⑫ 削除	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	三重県	30.8	30.3	30.8					
		全国	36.2	35.4	36.1					
		全国との差	-5.4	-5.1	-5.3					
⑬ (13)	子どもたちの規範意識の状況 「学校のきまりを守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の平均値	三重県	94.4	94.0	93.7	95.0	C <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>		
		全国	94.0	93.7	93.8	94.9				
		全国との差	0.4	0.3	-0.1	0.1				
		(13)	学校のきまりを守っている	三重県	91.8	92.8	88.6	92.0	C <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>
				全国	91.5	92.6	89.5	92.3		
				全国との差	0.3	0.2	-0.9	-0.3		
		(15)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	96.8	96.4	97.0	97.5	A <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>
				全国	96.6	96.1	96.8	97.1		
				全国との差	0.2	0.3	0.2	0.4		
		(16)	人の役に立つ人間になりたいと思う	三重県	94.5	92.8	95.5	95.5	A <sup>+</sup>	B
				全国	93.8	92.5	95.2	95.2		
				全国との差	0.7	0.3	0.3	0.3		
⑭ (35)	主体的・協働的な授業に取り組んでいる 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる ※H30からは「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の数値	三重県	75.0	72.8	75.1	77.5	A <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>		
		全国	75.7	75.1	76.7	77.7				
		全国との差	-0.7	-2.3	-1.6	-0.2				
⑮ 削除	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示	三重県	88.8	89.4						
		全国	87.6	88.2						
		全国との差	1.2	1.2						
⑯ 削除	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	76.9	78.8						
		全国	76.1	76.2						
		全国との差	0.8	2.6						
⑰ (39)	国語の授業の内容がよく分かる	三重県	81.4	83.4		86.3	A <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>		
		全国	80.7	82.2		84.9				
		全国との差	0.7	1.2		1.4				
⑱ (48)	算数の授業の内容がよく分かる	三重県	82.6	83.3	85.5	85.7	C <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>		
		全国	80.2	80.6	83.4	83.5				
		全国との差	2.4	2.7	2.1	2.2				
⑲ (40)	授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ ※国語、算数の平均値	三重県	90.3	89.0		92.5	C <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>		
		全国	89.6	88.5		91.9				
		全国との差	0.7	0.5		0.6				
	(40)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	90.0	88.7		91.7	C <sup>+</sup>	C <sup>+</sup>	
			全国	89.2	87.9		91.2			
			全国との差	0.8	0.8		0.5			
(49)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	90.5	89.3	91.2	93.3	A <sup>+</sup>	C <sup>+</sup>		
		全国	89.9	89.1	90.3	92.5				
		全国との差	0.6	0.2	0.9	0.8				

《学校質問紙》

質問紙番号	質問項目		H28	H29	H30	H31	H28-H31	H30-H31
⑳ 削除	対象児童に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上） ※H28までは「学校図書館を活用」	三重県	83.1	82.8				
		全国	83.0	83.9				
		全国との差	0.1	-1.1				
㉑ 削除	対象児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（週に2回以上）	三重県	21.8	25.6				
		全国	17.9	19.0				
		全国との差	3.9	6.6				
㉒ 削除	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示	三重県	98.7	98.8				
		全国	98.8	99.0				
		全国との差	-0.1	-0.2				
㉓ 削除	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	93.0	95.3				
		全国	94.9	95.4				
		全国との差	-1.9	-0.1				
㉔ (14)	学校生活の中で児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価した ※H29までは、学校生活の・・・を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価した	三重県	99.4	98.1	99.4	99.7	C <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>
		全国	98.4	97.4	99.0	98.8		
		全国との差	1.0	0.7	0.4	0.9		
㉕ (63)	前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	97.6	98.9	98.4	99.1	A <sup>+</sup>	A <sup>+</sup>
		全国	97.0	96.6	97.6	97.3		
		全国との差	0.6	2.3	0.8	1.8		
㉖ 削除	地域等の人材を招へいた授業等の実施	三重県	88.4	90.4	89.6			
		全国	82.4	84.2	83.4			
		全国との差	6.0	6.2	6.2			
㉗ (31)	校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	98.2	96.6	96.9	97.1	C <sup>-</sup>	B <sup>+</sup>
		全国	94.2	94.5	95.1	95.3		
		全国との差	4.0	2.1	1.8	1.8		

## 短期的・中期的な変化

## 中学校における三重県の割合や全国との差の経年推移

※表中のA・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」を、Bは「変動なし」、Cは「下降」を表す。  
 ※表中の+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」を、-は「下降」を表す。  
 ※表中の○は、上記に示した「A・B・C」及び「+・-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。  
 ※表中の網かけは、当該年度に同じ質問紙項目がなかったものである。  
 ※「短期的な変化」における網かけ部分の表記については、H29→H31の比較を表す。

### ≪生徒質問紙≫

質問紙 番号	質問項目	セカンドステージ		昨年度	本年度	中期的な 変化		短期的な 変化		
		H28	H29			H28→H31	H30→H31			
①	基本的生活習慣の状況 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の平均値	三重県	87.4	87.1	85.2	87.5	C	+	C	+
		全国	86.9	87.1	85.5	88.0				
		全国との差	0.5	0.0	-0.3	-0.5				
	(1) 朝食を毎日食べている	三重県	93.8	93.6	92.0	93.5	C	-	A	+
		全国	93.3	93.2	91.9	93.1				
		全国との差	0.5	0.4	0.1	0.4				
	(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている	三重県	75.6	75.7	74.0	76.6	C	+	C	+
		全国	75.2	75.6	74.2	78.0				
		全国との差	0.4	0.1	-0.2	-1.4				
	(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている	三重県	92.7	92.0	89.6	92.3	C	-	A	+
		全国	92.3	92.4	90.3	92.8				
		全国との差	0.4	-0.4	-0.7	-0.5				
②	子どもたちの自尊感情の状況 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分には、よいところがあると思う」の平均値	三重県	79.0	80.6		80.0	C	+	C	-
		全国	77.7	78.8		79.4				
		全国との差	1.3	1.8		0.6				
	(9) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	三重県	95.0	95.5		94.3	C	-	C	-
		全国	94.3	94.7		93.9				
		全国との差	0.7	0.8		0.4				
	(10) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する	三重県	70.8	73.2		70.7	C	-	C	-
		全国	69.6	71.0		70.3				
		全国との差	1.2	2.2		0.4				
	(5) 自分には、よいところがあると思う	三重県	71.3	73.2	79.9	74.9	C	+	C	⊖
		全国	69.3	70.7	78.8	74.1				
		全国との差	2.0	2.5	1.1	0.8				
(8) 将来の夢や目標を持っている	三重県	71.0	71.2	72.5	69.5	C	-	C	-	
	全国	71.1	70.5	72.4	70.5					
	全国との差	-0.1	0.7	0.1	-1.0					
④	平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用状況 「平日のテレビ等の視聴（3時間以上）」「平日のテレビゲーム等の使用（3時間以上）」の平均値	三重県	23.4	25.5						
		全国	21.5	23.4						
		全国との差	1.9	2.1						
	削除 平日のテレビ等の視聴（3時間以上）	三重県	25.5	27.3						
		全国	24.1	25.3						
		全国との差	1.4	2.0						
	削除 平日のテレビゲーム等の使用（スマホのゲームを含む）（3時間以上）	三重県	21.2	23.6						
		全国	18.9	21.4						
		全国との差	2.3	2.2						
	⑤ 削除 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用（3時間以上）	三重県	18.6	20.6						
		全国	16.6	18.1						
		全国との差	2.0	2.5						
⑥ (18) 平日の学習時間（1時間以上）	三重県	65.2	66.5	67.5	67.5	A	+	A		
	全国	67.9	69.6	70.6	69.8					
	全国との差	-2.7	-3.1	-3.1	-2.3					
⑦ 削除 休みの日の学習時間（1時間以上）	三重県	59.8	62.0							
	全国	67.8	69.4							
	全国との差	-8.0	-7.4							
⑧ (19) 授業時間以外の読書時間（平日10分以上）	三重県	46.4	47.7	49.6	45.5	C	-	C	-	
	全国	49.7	51.4	53.5	50.4					
	全国との差	-3.3	-3.7	-3.9	-4.9					
⑨ (4) 家の人（兄弟姉妹は含まない）と学校での出来事について話をする	三重県	73.7	74.0	75.4	76.0	B	+	A	+	
	全国	74.1	74.3	76.0	76.4					
	全国との差	-0.4	-0.3	-0.6	-0.4					
⑩ 削除 家の手伝いをしている	三重県	66.8								
	全国	67.2								
	全国との差	-0.4								
⑪ (17) 家で、自分で計画を立てて勉強している	三重県	50.3	54.3	54.8	52.6	A	+	C	-	
	全国	48.4	51.5	52.1	50.4					
	全国との差	1.9	2.8	2.7	2.2					
⑫ 削除 家で、学校の授業の復習をしている	三重県	48.5	48.6							
	全国	51.0	50.5							
	全国との差	-2.5	-1.9							
⑬ (12) 学校に行くのが楽しい	三重県	84.0	82.9		83.8	C	-	C	+	
	全国	81.4	80.9		81.9					
	全国との差	2.6	2.0		1.9					
⑭ (6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う	三重県	79.6	82.2	84.2	83.1	B	+	C	-	
	全国	78.0	80.4	82.2	81.5					
	全国との差	1.6	1.8	2.0	1.6					
⑮ (7) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	三重県	77.4	79.3		87.5	C	⊕	C	⊕	
	全国	74.1	75.5		84.6					
	全国との差	3.3	3.8		2.9					

質問紙番号	質問項目		H28	H29	H30	H31	H28-H31	H30-H31		
⑩ (23)	地域行事への参加	三重県	50.9	47.2	49.6	56.8	A ⊕	A ⊕		
		全国	45.2	42.1	45.6	50.6				
		全国との差	5.7	5.1	4.0	6.2				
⑪ 削除	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	三重県	65.9	57.8	58.5					
		全国	65.8	59.2	59.3					
		全国との差	0.1	-1.4	-0.8					
⑫ 削除	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	三重県	45.7	46.3	47.7					
		全国	48.7	49.7	51.8					
		全国との差	-3.0	-3.4	-4.1					
⑬ (13)	子どもたちの規範意識の状況 「学校の規則を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の平均値	三重県	94.2	94.1	95.9	95.7	B +	C -		
		全国	93.7	93.3	95.2	95.2				
		全国との差	0.5	0.8	0.7	0.5				
		(13)	学校の規則を守っている	三重県	95.9	96.5	96.0	96.9	C +	C +
				全国	94.7	95.2	95.1	96.2		
				全国との差	1.2	1.3	0.9	0.7		
		(15)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	93.7	93.0	96.2	95.4	A +	C -
				全国	93.6	92.8	95.5	95.1		
				全国との差	0.1	0.2	0.7	0.3		
		(16)	人の役に立つ人間になりたいと思う	三重県	93.0	92.7	95.5	94.8	A +	C -
				全国	92.8	91.9	94.9	94.3		
				全国との差	0.2	0.8	0.6	0.5		
⑭ (37)	主体的・協働的な授業に取り組んでいる 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる ※H30からは「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」の数値	三重県	73.1	74.1	75.3	77.6	C +	A +		
		全国	69.3	71.3	73.8	74.8				
		全国との差	3.8	2.8	1.5	2.8				
⑮ 削除	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示	三重県	85.5	90.2						
		全国	84.9	87.8						
		全国との差	0.6	2.4						
⑯ 削除	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	68.8	72.1						
		全国	63.1	66.1						
		全国との差	5.7	6.0						
⑰ (42)	国語の授業の内容がよく分かる	三重県	75.4	77.6		81.1	A ⊕	A +		
		全国	74.1	74.9		77.6				
		全国との差	1.3	2.7		3.5				
⑱ (51)	数学の授業の内容がよく分かる	三重県	74.9	75.0	75.0	79.1	C +	A +		
		全国	69.4	69.4	71.0	73.9				
		全国との差	5.5	5.6	4.0	5.2				
⑲ (43)	授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ ※国語、数学の平均値	三重県	79.3	79.8		84.2	A +	A +		
		全国	78.1	77.9		82.1				
		全国との差	1.2	1.9		2.1				
	(43)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	85.4	85.3		89.6	A +	C +	
			全国	84.6	83.3		88.0			
			全国との差	0.8	2.0		1.6			
	(52)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	73.1	74.3	74.8	78.8	A ⊕	A +	
			全国	71.5	72.4	72.9	76.2			
			全国との差	1.6	1.9	1.9	2.6			

＜学校質問紙＞

質問紙番号	質問項目		H28	H29	H30	H31	H28-H31	H30-H31
⑳ 削除	対象生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上） ※H28までは「学校図書館を活用」	三重県	45.3	48.4				
		全国	46.5	49.6				
		全国との差	-1.2	-1.2				
㉑ 削除	対象生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（週に2回以上）	三重県	12.0	15.3				
		全国	15.6	15.6				
		全国との差	-3.6	-0.3				
㉒ 削除	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示	三重県	100.0	98.8				
		全国	97.8	98.3				
		全国との差	2.2	0.5				
㉓ 削除	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	96.2	96.8				
		全国	93.0	94.3				
		全国との差	3.2	2.5				
㉔ (14)	学校生活の中で生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価した ※H29までは、学校生活の・・・を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価した	三重県	98.8	96.8	99.4	98.7	C -	C -
		全国	97.2	95.5	97.9	98.6		
		全国との差	1.6	1.3	1.5	0.1		
㉕ (79)	前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	95.5	94.2	97.5	98.1	A +	A +
		全国	94.8	94.4	96.1	95.7		
		全国との差	0.7	-0.2	1.4	2.4		
㉖ 削除	地域等の人材を招へいた授業等の実施	三重県	74.2	75.8	75.9			
		全国	65.1	68.9	70.1			
		全国との差	9.1	6.9	5.8			
㉗ (32)	校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	88.1	88.5	91.8	86.4	C -	C ⊖
		全国	82.6	83.5	85.4	84.9		
		全国との差	5.5	5.0	6.4	1.5		

## 第5章 今後の取組

子どもたちの「わからない・できない」を「わかった・できた」という実感につなげ、学習指導要領で求められる力を確実に身に付けられるよう、県教育委員会としてこれまで以上に市町等教育委員会と連携しながら、各学校・各市町の状況に応じた取組や学校・家庭・地域が一体となった取組を支援してまいります。

### 学習内容の理解・定着状況を確認するための取組

#### (1) 学-Viva!!セット（ワークシート）の提供

分析結果を踏まえ、課題に対する子どもたちの理解と定着状況が確認できるよう、当該学年で身に付けておくべき基礎からの標準的な問題を集めた学-Viva!!セットを全小中学校等に提供（11月、2月）します。

#### (2) みえスタディ・チェックによる改善状況の確認

各学校において改善状況を確認し、年度内に「できなかったことをできるようにする取組」が進められるよう、1月実施分では、これまでのみえスタディ・チェックや全国学力・学習状況調査の問題と同一、同趣旨の問題を作成・出題します。

### 経年的な課題の改善に向けた取組（「読む力・伝える力」の育成）

#### 「わかる・できる育成カリキュラム（読む力・伝える力編）」の提供

文章を読む力・伝える力の育成に向け、各学年の系統性を意識し、より効果的な指導が行えるよう、指導のポイント、たしかめプリントで構成した指導資料（「わかる・できる育成カリキュラム（読む力・伝える力編）」）を全小中学校等に提供します。

### 教員研修による「学力向上の取組の理解と活用」についての教員への周知

#### (1) 新任管理職研修における取組

新任管理職研修に授業改善のマネジメント、教員の授業力向上に向けた指導・助言方法などを取り入れます。

#### (2) 教職員研修における取組

若手教員を対象とした研修に、めあて・振り返りの効果的な実施、子どもたちの課題に対応した授業づくり、教材の活用など、授業改善に向けたより実践的な取組を位置付けます。

#### (3) 国の調査官を招へいた研修会の開催

国の調査官を招へいた授業改善研修会（小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学）を開催し、新学習指導要領に基づいた授業改善の視点や、効果的な少人数指導のあり方について学び、授業の質的向上を図ります。

### 中学校英語における取組

#### (1) ワークシート（学-Viva!!セット）の提供

全国学力・学習状況調査の結果を受け、課題の見られた設問について指導のポイント・授業改善の取組を解説した資料及び課題に対応したワークシート（学-Viva!!セット）を作成し、中学校等に提供します。

#### (2) 研修会の開催

各地域の実情に応じた英語地域別強化研修（15地域）、新学習指導要領に基づいた授業改善の充実を図るための公開授業等を実施します。

#### (3) CAN-DO リストの更新依頼と資料の活用促進

「CAN-DO リスト」を4技能（5領域）に更新するよう各中学校等へ依頼するとともに、その活用を促進します。

また、授業改善のポイントを記載した資料について、各種研修会での一層の活用を進めます。

### (1) 生活習慣・読書習慣チェックシートの取組

子どもたちの生活習慣、読書習慣の確立に向けて、三重県 PTA 連合会と連携した「生活習慣・読書習慣チェックシート」の取組を進めています。生活習慣・読書習慣チェックシートの活用率やチェックシート実施後の児童生徒や保護者へのフィードバック率は年々向上していますが、依然、平日の学習時間や読書習慣に課題が見られます。今後も、生活習慣等の改善に向け、学校・家庭・地域が一体となった取組の推進をお願いします。

### (2) 読書に関する取組

発達段階に応じた読書活動の推進、読書活動を通じた言語能力の育成に向け、さまざまな読書活動の取組（朝の連続小説、ポップづくりなど）を小中学校等に提案するとともに、各学校の実情に応じた学校図書館を活用した調べ学習や読み聞かせの取組を行っています。ビブリオバトル等を通して本の内容や楽しさを共有し、「ひとりの読書」から「みんなの読書」への発展を促進しています。

家庭で大人と子どもがともに本に親しむ「家読（うちどく）」のチラシを学校を通じて配布し、家庭での取組を啓発するとともに、家庭での読書活動を推進し読書の幅を広げるツール（読書の楽しさ広がるビンゴカード）を作成し、小学校を通じて活用を働きかけています。

### (3) 地域による学習支援や居場所づくりの取組

地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進し、公立小中学校等にコミュニティ・スクールを中心とする学校経営・学校運営の仕組みの導入を図っています。経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身に付いていなかったりする児童生徒を対象に、地域住民等の協力によって学習習慣の確立と学力の向上を図るための地域未来塾の取組を支援しています。

## <参考> 「子どもの問題は、大人の問題」です。

子どもたちは、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。子どもたちの無限の可能性を最大限引き出すとともに、強みを伸ばして支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは、大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

教育は子どもたちの心に灯をともしることであり、大人が子どもたちを信じ、寄り添い、情熱を持って心を通わせる中で、希望の灯をともし、やる気にスイッチを入れることが大切です。また、子どもたちは、さまざまな場での学びをおして成長していきますが、教育格差が原因となって貧困の連鎖が生まれ、子どもたちの将来が閉ざされることがないよう、子どもたちを多面的にサポートする人びとのつながり（絆）が、これまで以上に求められています。

そこで三重県では、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。平成 28 年度からの 4 年間は、みえの学力向上県民運動セカンドステージとして、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組みます。

（「みえの学力向上県民運動 基本方針」より一部抜粋）

## <参考>

みえの学力向上県民運動セカンドステージ (<http://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/>)

### ○基本方針

・県民運動の趣旨等をご覧ください。

### ○生活習慣・読書習慣チェックシート

・ダウンロードして活用していただけます。

### ○みえの親スマイルワーク

・「みえの家庭教育応援プラン」に基づき作成された、学級・学年の懇談会、PTA の行事などの機会や、地域のサークルや企業内での集まりなど、研修会や学習会だけでなく、さまざまな場面で活用していただけるワークシートを掲載しています。



みえの学力向上  
県民運動  
セカンドステージ



生活習慣・  
読書習慣  
チェックシート



みえの親  
スマイルワーク



# 第6章 市町等別調査結果の分析及び今後の取組

各市町等の調査結果の分析及び今後の取組の公表については、基本的に各市町等の判断により行います。以下の各市町等のホームページをご覧ください。

なお、情報をリンク等することについては、全市町等の同意を得ています。

- |        |        |        |              |        |
|--------|--------|--------|--------------|--------|
| ・ 桑名市  | ・ 木曾岬町 | ・ いなべ市 | ・ 東員町        | ・ 四日市市 |
| ・ 朝日町  | ・ 菰野町  | ・ 川越町  | ・ 鈴鹿市        | ・ 亀山市  |
| ・ 津市   | ・ 松阪市  | ・ 多気町  | ・ 多気町松阪市学校組合 |        |
| ・ 明和町  | ・ 大台町  | ・ 伊勢市  | ・ 玉城町        | ・ 大紀町  |
| ・ 南伊勢町 | ・ 度会町  | ・ 鳥羽市  | ・ 志摩市        | ・ 伊賀市  |
| ・ 名張市  | ・ 尾鷲市  | ・ 紀北町  | ・ 熊野市        | ・ 御浜町  |
| ・ 紀宝町  |        |        |              |        |

<資料> 「平成 31 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（平成 30 年 12 月 14 日 文部科学省）より抜粋

<p>8.調査結果の取扱い</p> <p>(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項</p> <p>調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。</p> <p>調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である。一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。</p> <p>このことを踏まえ、具体的な公表の手續等は、以下のとおりとする。</p> <p>ア 教育委員会及び学校による調査結果の公表</p> <p>(ア) 都道府県教育委員会においては、調査の実施主体が国であることや、市町村が基本的な参加主体であることなどに鑑みて、以下のとおり取り扱うこと。</p> <p>① 自らが設置管理する学校の状況については、それぞれの判断において、(工)に基づき公表することは可能であること。</p> <p>② 域内の市町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況及び各学校の状況については、市町村教育委員会の同意を得た場合は、(工)に基づき、当該市町村名又は当該市町村教育委員会が設置管理する学校名を明らかにした公表（市町村名又は学校名を特定することが可能な方法による公表を含む。以下同じ。）を行うことは可能であること。</p> <p>なお、個々の市町村名・学校名が明らかとならない方法（例えば、教育事務所単位の状況の公表等）で、(工)に基づき公表することは、都道府県教育委員会の判断において可能であること。</p> <p>③ ①又は②に基づき個々の市町村名・学校名を明らかにした公表を行うことについては、その教育上の影響等を踏まえ、必要性について慎重に判断すること。</p> <p>④ 自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合も、自らが個々の学校名を明らかにした公表を行う場合に準じて取り扱うこと。</p> <p>(イ) 市町村教育委員会においては、以下のとおり取り扱うこと。</p> <p>① 当該市町村教育委員会が設置管理する学校全体の結果について、それぞれの判断において、(工)に基づき公表することは可能であること。</p> <p>② 自らが設置管理する学校の状況について、それぞれの判断において、(工)に基づき公表することは可能であること。この場合、個々の学校名を明らかにした公表を行うことについては、その教育上の影響等を踏まえ、必要性について慎重に判断すること。</p> <p>③ 自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合も、自らが個々の学校名を明らかにした公表を行う場合に準じて取り扱うこと。</p> <p>(ウ) 学校においては、自校の結果について、それぞれの判断において(工)に基づき公表することは可能であること。</p>		<p>(エ) 調査結果の公表に当たっては、以下の①から⑥までにより行うこと。</p> <p>① 公表する内容や方法等については、教育上の効果や影響等を考慮して適切なものとなるよう判断すること。</p> <p>② 調査結果の公表を行う教育委員会又は学校においては、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行わず、調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表すること。さらに、調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策も速やかに示すこと。</p> <p>③ (ア) ①又は(イ) ②に基づき教育委員会が個々の学校名を明らかにした公表を行う場合、又は(ア) ②において市町村教育委員会が学校名を明らかにした公表に同意する場合は、当該学校と公表する内容や方法等について事前に十分相談するとともに、公表を行う教育委員会は、当該調査結果を踏まえて自らが実施する改善方策を調査結果の公表の際に併せて示すこと。</p> <p>また、教育委員会において自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合は、教育委員会は自らが実施する改善方策を速やかに示すとともに、公表する内容等について学校に指示する場合は、教育委員会は当該学校とそれらについて事前に十分相談すること。</p> <p>なお、平均正答数や平均正答率等の数値について一覽での公表やそれらの数値により順位を付した公表等は行わないこと。</p> <p>④ 調査の目的や、調査結果は学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを明示すること。</p> <p>⑤ 児童生徒個人の結果が特定されるおそれがある場合は公表しないなど、児童生徒の個人情報の保護を図ること。</p> <p>⑥ 学校や地域の実情に応じて、個別の学校や地域の結果を公表しないなど、必要な配慮を行うこと。</p> <p>(オ) 教育委員会が独自に実施する学力調査の公表の取扱いについては、もとよりそれぞれの教育委員会の判断に委ねられること。</p> <p>イ 文部科学省が公表する内容以外の調査結果の取扱い</p> <p>(ア) 文部科学省は、調査結果のうち、自らが公表する内容及び別に定めるガイドラインに基づき利用・公表された内容を除くものについて、これが一般に公開されることになると、序列化や過度な競争が生じるおそれや学校の設置管理者等の実施への協力及び国民的な理解が得られなくなるなど正確な情報が得られない可能性が高くなり、全国的な状況を把握できなくなるなど調査の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあると考えられるため、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（平成 11 年法律第 4 2 号）第 5 条第 6 号の規定を根拠として、同法における不開示情報として取り扱うこととする。</p> <p>(イ) 教育委員会等は、文部科学省から提供を受けた調査結果のうち公表する内容を除くものについて、上記（ア）を参考に、それぞれの地方公共団体が定める情報公開条例に基づく同様の規定を根拠として、情報の開示により調査の適正な遂行に支障を及ぼすことのないよう、本実施要領の趣旨、特に 8.（5）ア（工）を十分踏まえ、適切に対応する必要があること。</p>
---	--	---

全国学力・学習状況調査における平均正答率経年変化 (H19～H31)

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度(抽出調査)		平成24年度(抽出調査)		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		
	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	
国語 A	80.6	81.7	62.9	65.4	67.8	69.9	80.9~82.5 (81.7±0.8)	83.2~83.5 (83.3±0.2)	79.0~80.2 (79.6±0.6)	81.4~81.7 (81.6±0.2)	60.3	62.7	69.6	72.9	68.0	70.0	71.7	72.9	73.6	74.8	70.1	70.7	64.2	63.8	
	<-1.1>	<-1.1>	<-2.5>	<-2.1>	<-3.6>	<-1.6>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.4>	<-3.3>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.0>	<-1.2>	<-1.2>	<-1.2>	<-1.2>	<-1.2>	<-0.6>	<-0.6>	64.2	63.8
国語 B	60.0	62.0	47.1	50.5	46.9	50.5	74.2~76.2 (75.2±1.0)	77.7~78.0 (77.8±0.2)	51.8~53.5 (52.7±0.9)	55.4~55.8 (55.6±0.2)	46.7	49.4	52.5	55.5	65.3	65.4	58.1	57.8	57.0	57.5	53.6	54.7	<+0.4>*		
	<-2.0>	<-2.0>	<-3.4>	<-3.4>	<-3.6>	<-1.6>	<-2.6>	<-2.6>	<-2.9>	<-2.9>	<-2.7>	<-3.0>	<-3.0>	<-3.0>	<-3.0>	<-0.1>	<-0.1>	<+0.3>*	<-0.5>	<-0.5>	<-0.5>	<-1.1>	<-1.1>	<+0.4>*	
算数 A	81.1	82.1	70.9	72.2	76.0	78.7	71.5~73.4 (72.4±1.0)	74.0~74.4 (74.2±0.2)	71.4~73.0 (72.2±0.8)	73.1~73.5 (73.3±0.2)	75.8	77.2	76.2	78.1	74.8	75.2	78.3	77.6	77.4	78.6	62.8	63.5	66.6		
	<-1.0>	<-1.0>	<-1.3>	<-1.3>	<-2.7>	<-1.8>	<-1.8>	<-1.8>	<-1.1>	<-1.1>	<-1.4>	<-1.9>	<-1.9>	<-1.9>	<-1.9>	<-0.4>	<-0.4>	<+0.7>*	<-1.2>	<-1.2>	<-1.2>	<-0.7>	<-0.7>	66.6	
算数 B	61.4	63.6	49.7	51.6	52.5	54.8	46.5~48.2 (47.3±0.9)	49.1~49.5 (49.3±0.2)	56.0~57.6 (56.8±0.8)	58.7~59.1 (58.9±0.2)	55.3	58.4	56.0	58.2	44.1	45.0	47.1	47.2	44.6	45.9	50.1	51.5	<+0.1>*		
	<-2.2>	<-2.2>	<-1.9>	<-1.9>	<-2.3>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.1>	<-2.1>	<-3.1>	<-2.2>	<-2.2>	<-2.2>	<-2.2>	<-0.9>	<-0.9>	<-0.1>	<-0.1>	<-1.3>	<-1.3>	<-1.4>	<-1.4>	<+0.1>*	
4平均	70.8	72.4	57.7	59.9	60.8	63.5	69.2	71.2	65.3	67.4	59.5	61.9	63.6	66.2	63.1	63.9	63.8	63.9	63.2	64.2	59.2	60.1	130.9	130.4	
	<-1.6>	<-1.6>	<-2.2>	<-2.2>	<-2.7>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.0>	<-2.1>	<-2.1>	<-2.4>	<-2.6>	<-2.6>	<-2.6>	<-0.8>	<-0.8>	<-0.1>	<-0.1>	<-0.1>	<-1.0>	<-1.0>	<-0.9>	<-0.9>	<+0.5>*	
理科									57.2~58.8 (58.0±0.8)	60.8~61.1 (60.9±0.2)					59.2	60.8					58.8	60.3			
									<-2.9>						<-1.6>						<-1.5>				
5平均									63.9	66.1					62.3	63.3					59.1	60.1			
									<-2.2>						<-1.0>						<-1.0>				
国語 A	81.6	81.6	72.6	73.6	75.9	77.0	73.5~74.7 (74.1±0.6)	75.0~75.2 (75.1±0.1)	73.3~74.7 (74.0±0.7)	75.0~75.2 (75.1±0.1)	75.0	76.4	78.0	79.4	75.0	75.8	74.4	75.6	76.9	77.4	75.3	76.1	71.7	72.8	
	<0.0>	<0.0>	<-1.0>	<-1.0>	<-1.1>	<-1.1>	<-1.0>	<-1.0>	<-1.1>	<-1.1>	<-1.4>	<-1.4>	<-1.4>	<-1.4>	<-0.8>	<-0.8>	<-1.2>	<-0.5>	<-0.5>	<-0.5>	<-0.8>	<-0.8>	71.7	72.8	
国語 B	71.0	72.0	59.5	60.9	73.3	74.5	63.3~65.0 (64.1±0.9)	65.1~65.5 (65.3±0.2)	60.4~61.8 (61.1±0.7)	63.2~63.4 (63.3±0.1)	65.8	67.4	49.0	51.0	64.3	65.8	64.3	66.5	70.7	72.2	59.7	61.2			
	<-1.0>	<-1.0>	<-1.4>	<-1.4>	<-1.2>	<-1.2>	<-1.2>	<-1.2>	<-2.2>	<-2.2>	<-1.6>	<-1.6>	<-2.0>	<-2.0>	<-1.5>	<-1.5>	<-2.2>	<-1.5>	<-1.5>	<-1.5>	<-1.5>	<-1.5>			
数学 A	73.1	71.9	63.8	63.1	62.7	62.7	64.3~66.4 (65.4±1.1)	64.4~64.8 (64.6±0.2)	60.7~62.6 (61.6±1.0)	62.0~62.3 (62.1±0.2)	63.2	63.7	67.1	67.4	64.3	64.4	62.2	62.2	65.3	64.6	66.6	66.1	60.3	59.8	
	<+1.2>*	<+1.2>*	<+0.7>*	<+0.7>*	<0.0>	<0.0>	<+0.8>*	<+0.8>*	<-0.5>	<-0.5>	<-0.5>	<-0.5>	<-0.3>	<-0.3>	<-0.1>	<-0.1>	<0.0>	<0.0>	<+0.7>*	<+0.7>*	<+0.5>*	<+0.5>*	60.3	59.8	
数学 B	60.6	60.6	49.3	49.2	56.5	56.9	41.7~43.8 (42.8±1.1)	43.1~43.5 (43.3±0.2)	46.9~49.1 (48.0±1.1)	49.2~49.5 (49.3±0.2)	39.3	41.5	58.3	59.8	40.6	41.6	43.2	44.1	47.3	48.1	45.7	46.9	<+0.5>*		
	<0.0>	<0.0>	<+0.1>*	<+0.1>*	<-0.4>	<-0.4>	<-0.5>	<-0.5>	<-1.3>	<-1.3>	<-2.2>	<-2.2>	<-1.5>	<-1.5>	<-1.0>	<-1.0>	<-0.9>	<-0.9>	<-0.8>	<-0.8>	<-0.8>	<-1.2>	<-1.2>	<+0.5>*	
4平均	71.6	71.5	61.3	61.7	67.1	67.8	61.6	62.1	61.2	62.5	60.8	62.3	63.1	64.4	61.1	61.9	61.0	62.1	65.1	65.6	61.8	62.6	132.0	132.6	
	<+0.1>*	<+0.1>*	<-0.4>	<-0.4>	<-0.7>	<-0.7>	<-0.5>	<-0.5>	<-1.3>	<-1.3>	<-1.5>	<-1.5>	<-1.3>	<-1.3>	<-0.8>	<-0.8>	<-1.1>	<-1.1>	<-0.5>	<-0.5>	<-0.5>	<-0.8>	<-0.6>	<+0.5>*	
理科									49.7~51.4 (50.6±0.9)	50.9~51.1 (51.0±0.1)					51.9	53.0					66.0	66.1			
									<-0.4>						<-1.1>						<-0.1>				
5平均									59.1	60.2					59.2	60.1					62.7	63.3			
									<-1.1>						<-0.9>						<-0.6>			188.0	188.6

※<>内の数値は、(三重県の平均正答率) - (全国の平均正答率) の値を示し、\*は、全国平均との差において全国平均より良かった値を示しています。  
 ※平成23年度の調査は東日本震災のため、実施されませんでした。  
 ※平成22年度と平成24年度は、平均正答率の95%信頼区間(平均正答率の推計値±誤差の幅)を表します。

全国学力・学習状況調査における平均無解答率経年変化 (H19～H31)

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度(抽出調査)		平成24年度(抽出調査)		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度			
	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国		
小学校	国語A	2.45	2.03	12.92	10.93	11.82	9.90	3.51	2.63	3.99	2.98	12.33	10.68	2.86	2.30	3.34	3.56	5.05	5.29	2.26	2.77	2.98	3.51			
		<0.42>		<1.99>		<1.92>		<0.88>		<1.01>		<1.65>		<0.56>		<-0.22>*		<-0.24>*		<-0.51>*		<-0.53>*				
小学校	国語B	11.21	8.67	15.18	12.30	16.03	12.10	5.93	4.22	9.14	6.61	16.84	13.59	11.40	9.20	6.11	6.09	4.38	4.62	4.32	4.31	3.89	3.76	5.47	6.21	
		<2.54>		<2.88>		<3.93>		<1.71>		<2.53>		<3.25>		<2.20>		<0.02>		<0.02>		<-0.24>*		<0.01>		<0.13>		
小学校	算数A	1.34	1.12	3.39	2.95	2.56	2.10	2.85	2.41	2.88	2.26	1.96	1.66	1.01	0.90	1.66	1.79	1.48	1.79	1.44	1.59	2.03	2.48			
		<0.22>		<0.44>		<0.46>		<0.44>		<0.62>		<0.30>		<0.11>		<0.13>*		<-0.13>*		<-0.31>*		<-0.15>*		<-0.45>*		
小学校	算数B	7.27	5.87	7.61	6.05	7.99	6.20	8.02	6.21	5.79	4.62	8.11	6.31	5.36	4.30	9.64	9.12	7.08	7.37	6.64	6.42	8.26	7.93	2.49	2.66	
		<1.40>		<1.56>		<1.79>		<1.81>		<1.17>		<1.80>		<1.06>		<0.52>		<0.52>		<-0.29>*		<0.22>		<0.33>		
中学校	理科									4.28	3.08					3.26	3.21					1.23	1.21			
										<1.20>						<0.05>						<0.02>				
中学校	国語A	3.29	3.52	3.57	3.77	3.27	3.30	2.60	2.70	3.98	3.53	2.54	2.41	3.24	3.10	2.40	2.57	1.92	2.05	2.01	2.43	2.89	3.15			
		<-0.23>*		<-0.20>*		<-0.03>*		<-0.10>*		<0.45>		<0.13>		<0.14>		<-0.17>*		<-0.17>*		<-0.13>*		<-0.42>*		<-0.26>*		
中学校	国語B	5.11	5.17	8.83	8.65	5.79	5.60	6.80	6.80	5.41	4.81	2.87	2.83	3.84	3.50	2.29	2.23	4.46	4.39	3.72	3.80	3.01	3.01	2.57	2.60	
		<-0.06>*		<0.18>		<0.19>		<0.00>		<0.60>		<0.04>		<0.34>		<0.06>		<0.06>		<0.07>		<-0.08>*		<0.00>		
中学校	数学A	3.68	4.05	6.15	6.64	4.79	5.10	5.90	6.27	2.96	2.65	5.46	5.31	4.32	4.30	3.24	3.72	5.62	6.30	5.39	6.25	2.84	3.28			
		<-0.37>*		<-0.49>*		<-0.31>*		<-0.37>*		<0.31>		<0.15>		<0.02>		<0.48>*		<-0.48>*		<-0.68>*		<-0.86>*		<-0.44>*		
中学校	数学B	13.98	14.44	12.75	13.45	9.74	9.70	19.50	19.30	13.95	13.08	18.09	16.71	11.41	10.90	14.85	15.34	13.95	14.69	10.95	11.71	11.55	12.61	6.65	7.31	
		<-0.46>*		<-0.70>*		<0.04>		<0.20>		<0.87>		<1.38>		<0.51>		<-0.49>*		<-0.49>*		<-0.74>*		<-0.76>*		<-1.06>*		
中学校	理科									9.85	9.39					6.70	6.98					4.96	5.04			
										<0.46>						<-0.28>*						<-0.08>*				
中学校	英語 (聞く 読む) 書く)																								5.44	5.99
																									<-0.55>*	<-0.55>*

※<>内の数値は、(三重県の平均無解答率) - (全国の平均無解答率) の値を示し、\*は、全国平均との差において、全国平均を下回る値(良好な状況)を示しています。  
 ※平成23年度の調査は東日本大震災のため、実施されませんでした。

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果 分析報告書

発行日	令和元年 11 月
発行者	三重県教育委員会 〒514-8570 三重県津市広明町 13 番地

QRコード



分析報告書のページ